

活 動 報 告

日本語教育部門：日本語・日本事情

(2001年4月～2002年3月)

田村 泰男

1. 授業科目一覧

授業科目	単位数 開設数	学期別週授業時数			備考
		前期	後期	通年	
◎ 日本語 I A	1	2	2		留 業 で 東 開 大 学 の 印 度 の 授 業 地 区 を 主 と し て 講 義 す る 。◎ 留 業 生 の 為 に 講 義 す る 。◎ 留 業 生 の 為 に 講 義 す る 。◎
◎ 日本語 I B	1	2	2		
日本語 I C	1	2	2		
日本語 I D	1	2	2		
◎ 日本語 II A	1	2	2		
日本語 II B	1	2	2		
日本語 II C	1	2	2		
日本語 II D	1	2	2		
日本語 II E	1	2	2		
日本語 II F	1	2	2		
日本語 III A	2	2	2		
日本語 III B	2	2	2		
日本語 III C	2	2	2		
日本語 III D	2	2	2		
日本語 IV A	2	2	2		
日本語 IV B	2	2	2		
日本語 IV C	2	2	2		
日本語 IV D	2	2	2		
◎ 日本語 V A	2	2	2		
日本語 V B	2	2	2		
日本語 V C	2	2	2		
日本語 V D	2	2	2		
日本語 V E	2	2	2		
日本事情 A	2	2	2		
日本事情 B	2	2	2		
日本事情 C	2	2	2		
日本事情 D	2	2	2		
日本事情 E	2	2	2		

2. 授業内容

(東広島キャンパス)
レベル1 (Level 1)

授業科目 Course Title	日本語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD JapaneseⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教官 Professor	堀田泰司・下村真理子・渡部浩見・山中康子 T.Hotta・M.Shimomura・H.Watanabe・Y.Yamanaka
目 標 Aims	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。 To enable students to read and write kana (the phonetic syllabaries) and basic kanji (Chinese characters), and to familiarize them with rudimentary grammar.
内 容 Contents	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習 1. Introduction of written characters. 2. Introduction of basic sentence patterns. 3. Practice reading aloud. 4. Practice using the language both by speaking and by taking notes.
テキスト Text	みんなの日本語初級 1 Minna no Nihongo 1

レベル2-1 (Level 2-1)

授業科目 Course Title	日本語ⅡA・ⅡB・ⅡC JapaneseⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官 Professor	石原淳也・松崎寛・坂田光美 J.Ishihara・H.Matsuzaki・T.Sakata
目 標 Aims	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。 To consolidate the basic vocabulary, sentence patterns, and expressions studied in the elementary classes. To enrich vocabulary and expressive ability. To teach practical Japanese suitable to various situations.
内 容 Contents	短文を中心に構成され、会話を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。 Use materials mainly composed of short passages and conversations. Apply known vocabulary, sentence patterns, and expressions while learning appropriate expressions for different situations. Then, combine new vocabulary, structures, and expressions in oral and written practice, aiming to learn more natural Japanese.
テキスト Text	みんなの日本語初級 2 Minna no Nihongo 2

レベル 2 - 2 (Level 2-2)

授業科目 Course Title	日本語ⅡD・ⅡE・ⅡF JapaneseⅡD・ⅡE・ⅡF
担当教官 Professor	田村泰男・坂田光美・渡辺久美 Y.Tamura・T.Sakata・K.Watanabe
目 標 Aims	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。 To consolidate the basic vocabulary, sentence patterns, and expressions studied in the elementary classes. To enrich vocabulary and expressive ability. To teach practical Japanese suitable to various situations.
内 容 Contents	1. 文型練習の積み上げにより文型・語彙の定着をはかる。 2. あいさつなどの慣用的表現を学び、場面や状況にふさわしい表現能力を養う。 3. 短い会話をテープで聞き、内容の要点を把握する練習と質問に答える練習を行う。 1. Attempt to gain mastery of structures and vocabulary through increased sentence pattern practice. 2. Develop expressive abilities for various situations, and to teach common expressions such as greetings and the like. 3. Listen to short, taped conversations, and then attempt to grasp main points and answer factual questions.
テキスト Text	みんなの日本語初級 2 Minna no Nihongo 2

レベル 3 (Level 3)

授業科目 Course Title	日本語ⅢA・ⅢB JapaneseⅢA・ⅢB
担当教官 Professor	石原淳也 J.Ishihara
目 標 Aims	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読み取る読解力を身に付け、更にその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。 To acquire reading comprehension ability by reading long, intermediate-level passages and coming to understand reliably what these texts communicate. Moreover, to foster accurate linguistic expression.
内 容 Contents	授業は、日本の生活・習慣などを題材としたテキストを用いて行う。日常よく用いる言葉及び表現文型をできるだけたくさん確実に覚え、それらを使った例文を作る練習をする。各課の終了後は、理解の程度を確かめるために、必ず口頭で文章の内容について発表すると共に、各自質問紙に答えてもらう。 The theme of the text is Japanese life and customs. Students learn everyday words and expressive sentence structures, and practice composing example sentences with those. To be certain of the students' degree of understanding, at the end of the course, students give an oral report based on the contents of the text, as well as answer an individual query sheet.
テキスト Text	日本語2ndステップ Nihongo 2nd step

授業科目 Course Title	日本語ⅢD JapaneseⅢD
担当教官 Professor	渡部浩見 H.Watanabe
目 標 Aims	<p>実際の講義やニュースを聞いて理解できるようになるための準備段階として本授業を位置付け、一定の長さがある聴解教材の内容の概要把握ができるような聞き取り能力を身に付けることを目標とする。また、聞いて分かる理解語彙を増やすことも目標とする。</p> <p>To listen to actual lectures and news reports and to gain steps toward comprehension. The aim is to improve understanding of spoken Japanese by using fixed-length listening comprehension materials, and also, to expand listening comprehension vocabulary.</p>
内 容 Contents	<p>ランゲージ・ラボ(LL)を利用し、全体授業に加え、個別学習・個別指導を行う。</p> <p>Use the Language Lab (LL), and engage in individual study and guidance in addition to regular class.</p>
テキスト Text	<p>プリントを配布する。</p> <p>Printed materials will be distributed.</p>

レベル4 (Level 4)

授業科目 Course Title	日本語ⅣA・ⅣB JapaneseⅣA・ⅣB
担当教官 Professor	田村泰男 Y.Tamura
目 標 Aims	<p>日本語Ⅲまでに学習してきた項目について確実に運用できるようにさせるとともに、日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身に付けさせる。</p> <p>To apply the items learned up to JapaneseⅢ, and at the same time, to acquire a balance of the four language skills : listening, speaking, reading, and writing.</p>
内 容 Contents	<p>読解用教材を読むことによって、既習の文型・語彙・表現を整理し、併せて新しい文型・語彙・表現を学習する。その際、口頭練習で定着をはかるとともに、書き言葉に属する言い回し、或いは文型を「書く」作業によって練習し、文章レベルでの理解をはかる。これらの作業の後、教材の内容理解を確認するために練習問題を使って質疑応答を行う。</p> <p>Revise learned and teach new sentence patterns, vocabulary, and expressions through the reading of texts. This is supplemented by oral practice. Practice by studying the operations of written structures and the modes of expression in written language. Afterwards, in order to confirm understanding of the texts, there is a question and answer session and an opportunity to make use of practice questions.</p>
テキスト Text	テーマ別中級から学ぶ日本語

授業科目 Course Title	日本語ⅣC Japanese IV C
担当教官 Professor	中川正弘 M.Nakagawa
目 標 Aims	日本語作文を書くことで、文法や語彙をその選び方、使い方として理解させる。 To write compositions and to gain an understanding of the use and selection of grammatical structures and vocabulary.
内 容 Contents	<p>1. 作文例を分析しながら読むことで、テーマ、内容を考えるだけでなく、文法や語彙についての理解を正す。</p> <p>2. 作文例と同じテーマで自分でも作文を書く中で、いろいろなスタイルの使い分けや、辞書に出てくる類義表現の選び方など、ことばの能動的な運用練習をする。</p> <p>3. 作文はすべて添削した後返却するので、自分の日本語の弱点を確認し、学習の目標をはっきりさせる。</p> <p>1. While analyzing example compositions, students consider not just the themes and contents, but also, come to an understanding of grammar and vocabulary.</p> <p>1. Practice active application of words and similar expressions from dictionaries, and the variety of styles used in writing, as students write their own compositions based on the same themes as the examples.</p> <p>2. After receiving corrected compositions, students identify their own weak points and clarify their aims of study.</p>
テキスト Text	作文例と文法、語彙をまとめたプリントを毎回配布する。 Original materials

授業科目 Course Title	日本語ⅣD Japanese IV D
担当教官 Professor	坂田光美 T.Sakata
目 標 Aims	日常会話で交わされる会話を聞き取り、自然な口語で会話する能力を養う。 To improve the conversational skill by listening to various types of daily conversation among native Japanese speakers.
内 容 Contents	ランゲージ・ラボ（LL）を利用し、全体授業に加え、個別学習・個別指導を行う。 Use the Language Lab (LL), and engage in individual study and guidance in addition to regular class.
テキスト Text	なめらか日本語会話 Successful Communication in Japanese

レベル 5 (Level 5)

授業科目	日本語 V A
担当教官	深見兼孝
目 標	時事日本語の聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	A. 時事論評を聞き、その内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補足する。 さらに重要語句の使い方について練習する。 B. ニュースを聞き、 1) その内容を理解する練習を行う。 2) スクリプトの完成を行う。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ及び、自主教材。

授業科目	日本語 V B
担当教官	中川正弘
目 標	日本語における「表現」の様々な側面を考察することで、内容や文法のレベルにとどまらず、表現行為や解釈行為まで含めた「ことば」とはどんなものであるかを理解する。
内 容	文章練習とその徹底的な分析を柱とする。ほぼ毎週短い作文を提出してもらい、これは当然添削して返却するが、添削では到底表すことができない日本語という言語の問題、誤用の分析、また言葉の「選び」などに現れる日本文化、日本社会の考察を通して、外国人の日本語と日本人の日本語を隔てているものが何であるか検討してゆく。
テキスト	用例分析のプリントを毎回配布する。

授業科目	日本語 V C
担当教官	石原淳也
目 標	1) 現代の若者が使う語彙、表現を身につけ、同時にその背景にある日本文化を理解する。 2) 聴解能力の向上。
内 容	映画、テレビドラマを見ながら学生に質問をして、理解が不十分であると思われる語彙、表現、発音、出演者の行動について解釈を加えるとともに、適宜、学生同士に議論を行わせる。
テキスト	適宜印刷物を配布する。

授業科目	日本語VD
担当教官	田村泰男
目 標	類義語・慣用句を中心とした語彙や上級文法を習得させることによって日本語の読解力・表現力を高める。
内 容	主として、語彙を中心に授業を行う。 1.漢字の訓読み、特別な読み方をする漢字 2.類義語・類意表現 3.慣用句 4.接頭辞・接尾辞 5.新聞の語彙・表現
テキスト	自主教材

授業科目	日本語VE
担当教官	山中康子
目 標	文芸作品を中心にまとまった長さの文章を読み、それに対する意見を述べることを通して、日本語の表現を理解する力、また、日本語による表現力を高める。
内 容	主として、文芸作品の読解を中心に授業を行う。 1. 作品の内容把握 2. 難解な語彙・上級文法事項 3. 情景描写・感情表現の理解 4. 作者の表現意図 5. 読後感想・作品に対する意見
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情A
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を学ぶことにより（時には世界各国の諺と対照比較して）、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などの理解を目指す
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土を学習する。各々の諺がもっているテーマやそこで使用されている素材を考える。諺の表現の特徴やおもしろさを考える。簡単なクイズ形式の設問を用いて考えてみる機会を与える。各々の諺について、留学生達の意見、対照比較できるような自国の諺や表現とその考え方を発表してもらい、意見の交換をする。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情 B
担当教官	長谷川伸次
目 標	日常生活や社会的慣行の中に息づく日本の伝統文化や社会的風土を観察・認識することで、時事問題へのより深い理解と学習を目指す。
内 容	1.新聞、雑誌等を梃子として、日本の社会的経済的問題点を討議する。 2.日本人・日本社会の思考体系や行動様式を討議する。 3.必要に応じて公共施設や企業訪問を実施する。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情 C
担当教官	玉岡賀津雄
目 標	言語処理に関する基本的な特徴を異言語間で比較考察することによって、異文化間のコミュニケーションで起こる多様な現象を理解する。
内 容	本授業は、「異文化間コミュニケーション」と題して、以下のことを学ぶ。 (1)言語処理における音声・書字・統語・意味的要素、(2)単語の形態素構成および単語自体の様々な特徴による認知処理への影響、(3)文章の統語的分析とその認知処理、(4)意味的な認知、さらに(5)言語を超えた社会・文化・習慣的な知識の言語理解への影響について、日本と他の言語を比較考察することによって、普遍的または特殊な言語認知処理モデルを摸索する。
テキスト	必要な文献を紹介またはプリントして配布する。

授業科目	日本事情 D
担当教官	橋本敬司
目 標	日本人でさえ自覚的ではない日本人と日本という文化の形について、履修者が互いに議論することを通して考察し、それぞれの日本人と日本を発見して行く。
内 容	新聞などの記事をテキストとし、記事の内容を正確に理解した上で、履修者が互いの意見を発表しながら討論考察する。
テキスト	テキストは特になし。資料はコピーで配布する。

授業科目	日本事情E
担当教官	今石正人
目 標	戦後の日本映画をいくつか観賞することで、広くは日本文化と社会、狭くは家族関係の変遷についての理解を深めさせる。
内 容	小津安二郎の「東京物語」、山田洋次の「家族」、森田芳光の「家族ゲーム」を比較検討する。 戦後の歴史、時代背景、監督、主題、家族の描かれ方、観客の反応・評価について説明し、学生の出身国の家族形態との比較や相違点・類似点などをディスカッションする。
テキスト	小津安二郎「東京物語」、山田洋次「家族」、森田芳光「家族ゲーム」ほか
参考文献	佐藤忠夫「映画をどう見るか」講談社新書 1976年、 佐藤忠夫「見ることと見られること」日本評論社 1991年 川本三郎「今ひとたびの戦後日本映画」岩波書店 1994年、 Donald Richie, Japanese Cinema, Oxford U.P., 1990 Ian Bruma, Behind the Mask, A Meridian Book, 1985 Tadao Sato, Currents in Japanese Cinema, Kodansha, 1982

(霞キャンパス)
レベル1 (Level 1)

授業科目 Course Title	日本語 I A・I B Japanese I A・I B
担当教官 Professor	渡部浩見・下村真理子 H.Watanabe・M.Shimomura
目 標 Aims	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。 To enable students to read and write kana (the phonetic syllabaries) and basic kanji (Chinese characters), and to familiarize them with rudimentary grammar.
内 容 Contents	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習 1. Introduction of written characters. 2. Introduction of basic sentence patterns. 3. Practice reading aloud. 4. Practice using the language both by speaking and by taking notes.
テキスト Text	みんなの日本語初級 1 Minna no Nihongo 1

レベル 2 (Level 2)

授業科目 Course Title	日本語ⅡA JapaneseⅡA
担当教官 Professor	渡部浩見 H.Watanabe
目 標 Aims	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。 To consolidate the basic vocabulary, sentence patterns, and expressions studied in the elementary classes. To enrich vocabulary and expressive ability. To teach practical Japanese suitable to various situations.
内 容 Contents	短文を中心に構成され、会話を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。 Use materials mainly composed of short passages and conversations. Apply known vocabulary, sentence patterns, and expressions while learning appropriate expressions for different situations. Then, combine new vocabulary, structures, and expressions in oral and written practice, aiming to learn more natural Japanese.
テキスト Text	みんなの日本語初級 2 Minna no Nihongo 2

レベル 5 (Level 5)

授業科目	日本語ⅤA
担当教官	下村真理子
目 標	慣用的表現や上級文法を習得させることによって日本語の読解力、文章表現力を高めさせる。また、時事日本語の聴解力も養わせる。
内 容	主として新聞の記事から題材をとり、漢字の読み書き、慣用句、文法などの問題点をテキストとしてまとめたものを用いる。授業では、まず読んで理解し、次にそれに対する自分の意見をまとめて発表し、討論へと発展させる。また、ニュースなどを聞くことにより、聴解力を養い、文章表現との違いを理解する。
テキスト	自主教材

3. 時間割

(東広島キャンパス)

		レベル1	レベル2-1	レベル2-2	レベル3	レベル4	レベル5	
月 曜 日	1	9:00-						
	2	10:30						
	3	10:50-		日本語ⅡA	日本語ⅡD			日本語VE
	4	12:20		石原(L102)	田村(L104)			山中(K203)
	5	13:10-	日本語ⅠD				日本語ⅣA	日本事情C
	6	14:40	山中(K113)				田村(K114)	玉岡(K217)
	7	15:00-				日本語ⅢA		日本語VA
	8	16:30				石原(K215)		深見(K217)
火 曜 日	1	9:00-						
	2	10:30						
	3	10:50-		日本語ⅡB	日本語ⅡE			日本語VC
	4	12:20		松崎(K216)	坂田(K203)			石原(K308)
	5	13:10-	日本語ⅠB			日本語ⅢB		日本事情E
	6	14:40	下村(K114)			石原(K108)		今石(K213)
	7	15:00-						日本事情A
	8	16:30						浮田(K217)
水 曜 日	1	9:00-						日本事情B
	2	10:30						長谷川(K217)
	3	10:50-		日本語ⅡC	日本語ⅡF			日本事情D
	4	12:20		坂田(L108)	渡辺(K216)			橋本(L107)
	5	13:10-	日本語ⅠC				日本語ⅣD	
	6	14:40	渡部(K108)				坂田(K308)	
	7	15:00-				日本語ⅢD		
	8	16:30				渡部(K308)		
木 曜 日	1	9:00-						
	2	10:30						
	3	10:50-	日本語ⅠA					日本語VD
	4	12:20	堀田(K114)					田村(K116)
	5	13:10-					日本語ⅣB	
	6	14:40					田村(K114)	
	7	15:00-					日本語ⅣC	
	8	16:30					中川(K217)	
金 曜 日	1	9:00-						
	2	10:30						
	3	10:50-						日本語VB
	4	12:20						中川(K113)
	5	13:10-						
	6	14:40						
	7	15:00-						
	8	16:30						

(假キャンパス)

			レベル 1	レベル 2	レベル 5
月 曜 日	1 2	9:00- 10:30	日本語 I A 渡 部		
	3 4	10:50- 12:20		日本語 II A 渡 部	
	5 6	13:10- 14:40			
	7 8	15:00- 16:30			
火 曜 日	1 2	9:00- 10:30			
	3 4	10:50- 12:20			
	5 6	13:10- 14:40			
	7 8	15:00- 16:30			
水 曜 日	1 2	9:00- 10:30			
	3 4	10:50- 12:20	日本語 I B 下 村		
	5 6	13:10- 14:40			日本語 VA 下 村
	7 8	15:00- 16:30			
木 曜 日	1 2	9:00- 10:30			
	3 4	10:50- 12:20			
	5 6	13:10- 14:40			
	7 8	15:00- 16:30			
金 曜 日	1 2	9:00- 10:30			
	3 4	10:50- 12:20			
	5 6	13:10- 14:40			
	7 8	15:00- 16:30			

日本語研修コース

深見兼孝

[修了者]

第32期生名簿（2001年4月～2001年9月）[29人]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Azari Dehkordi Foroood	アザリ	イラン	環境工学	広島大学
Ondopa, Justin Win	ジャスティン	バファ・ニューギニア	環境学	〃
Bhatta, Pramod Prasad	プラモド	ネパール	教育学	〃
Hettiarachchi, Ranjan Chandra Kumara	ランジャン	スリランカ	言語学	〃
Gundogdu, Cengiz	ジェングス	トルコ	日本語学	〃
Zaffuto, Steven Randolph	スティーブン	アメリカ合衆国	教育学	〃
Ivana, Adrian	アドリアン	ルーマニア	日本語学	〃
Sipos, Mariela Angelica	マリエラ	ルーマニア	教育心理学	〃
Faliniaina, Lucien	ファリ	マダガスカル	自然科学	〃
Salazar, Gary Abdiel	ガリ	パナマ	応用化学	〃
Taufiq Arif Setyanto	アリフ	インドネシア	機械工学	〃
Yudi Darma	ユディダルマ	インドネシア	物理学	〃
Tantular Nurtono	タントウ	インドネシア	化学工学	〃
Gonzales, Hazel Bantolino	ヘイゼル	フィリピン	環境化学	〃
Concibido, Neil Cierte	ニール	フィリピン	環境工学	〃
Mahmoud, Manal Gomaa	マナル	エジプト	化学	〃
Guimaraes, Andre Luis	アンドレ	ブラジル	化学工学	〃
Gervacio, Tamsi Jazmin Delima	ハスミン	フィリピン	応用生物科学	〃
Gomez, Dennis Kaw	デニス	フィリピン	海洋生物資源学	〃
Oliva, Luis Francisco	ルイス	チリ	生物生産学	〃
Navarro, Dondee Serveza	ドンデー	フィリピン	機械知能工学	〃
Perez-Kuroki, Ana Jagui	アナ	ヴェネズエラ	物理学	〃
Budi Setyo Prasodjo	ブディ	インドネシア	海洋工学	〃
Buyan, Ariunaa	アリウナー	モンゴル	教育学	〃
Kasumba, Yvonne Margaret	イボンヌ	南アフリカ	国際関係学	〃
Inayat, Riaz	リアズ	パキスタン	情報通信工学	〃
Uy, Mylene Mondarte	マイリーン	フィリピン	化学	〃
Mylavarapu, Lakshmi Venkata	ラクシュミ	インド	日本文学	山口大学
Tran, Hang Thi Minh	トラン	ヴェトナム	園芸学	〃

[修了者]

第33期生名簿(2001年10月~2002年3月) [17人]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Ackerer, Arnold Wolfgang	アーノルド	オーストリア	哲(心理)学	広島大学
Danshiitsoodol, Narandalai	ナラ	モンゴル	生命科学	"
Keovongvichith, Phetsathaphone	ハックタホン	ラオス	経済学	"
Ocran, Vivienne	ビビエン	ガーナ	教育学	"
Gomes, Alexandre Manoel do Carmo	アレシャントレ	ブラジル	応用化学	山口大学
Chittilappilly, Babu Varkey	バブ	インド	企業経営学	"
Shaposhnikov, Sergei Viacheslavovich	セルゲイ	ロシア	経営学・経済学	広島市立大学
Sui Len Tial	スイレティアル	ミャンマー	物理教育	広島大学
Fernandez, Toni Dinah Cheer Dela Gente	トニ	フィリピン	数学教育	"
Lee, Young Suk (李英淑)	リョウ	大韓民国	日本語教育	"
Jang, Ji Eun (章智恩)	チャン	大韓民国	古典文学	"
Gathambiri, Isaac Muraguri	アイサーック	ケニア	化学教育	"
Karanu, John Mwangi	ジョン	ケニア	生物学	"
Vera, Cardenaz Arelia	アレリア	メキシコ	数学教育	"
Suazo, Marco Antonio	マルコ	ホンジュラス	比較教育学	"
Mejia Galdamez, Edna Suyapa	エドナ	ホンジュラス	生物学	"
Del Busto, Raul Enrique	ラウル	ペルー	社会学	島根大学

第32期予定表 (2001年4月～2001年9月)

期日	行事/試験等	特別研究指導	備考
4/11-4/13	4/10 (火) 11:00オリエンテーショ(K308) 4/11 (水) 13:30開講式 (教育学部第3・第4会議室) クラスミーティング		4/11 (水) 14:00ホストファミリー案内(K308) 4/14 (土) 東広島市オリエンテーションバスツアー
4/16-4/20	4/16・17・18 (月・火・水) 9:00 - 9:45コンピューター講習会		
4/23-4/27		4/27 (金) 広島市	4/27 (金) 4:30ホストファミリー対面式 4/28 (土) 10:00 - 12:00 防災オリエンテーション
4/30-5/4			4/30 (月) 公休日 5/3 (木) - 5/5 (土) 公休日
5/7-5/11			
5/14-5/18	5/17 (木) 第1回試験		
5/21-5/25		5/25 (金) 宮島	
5/28-6/1			
6/4-6/8	6/7 (木) 「専門用語解説」開始		
6/11-6/15			
6/18-6/22	6/21 (木) 第2回試験		
6/25-6/29			
7/2-7/6			
7/9-7/13		7/13 (金) マツダ	
7/16-7/20	7/17 (火) 第3回試験		7/20 (金) 公休日
7/23-7/27			
7/30-7/31			
8/1-8/31	夏休み		
9/3-9/7	9/6 (木) 第4回試験 9/7 (金) 特別講義		
9/10-9/12	9/10・11 (月・火) 特別講義 9/12 (水) 13:00成果発表会 (事務局2F会議室) 15:00修了式 (＃)		9/15 (土) 公休日

第33期予定表 (2001年10月～2002年3月)

期日	行事/試験等	特別研究指導	備考
10/11-10/12	10/11 (木) 11:00オリエンテーショ(K308) 10/12 (金) 11:00開講式 (教育学部第3・第4会議室) クラスミーティング		10/12 (金) 11:30ホストファミリー案内(K308)
10/15-10/19	10/15・16・17 (月・火・水) 9:00 - 9:45コンピューター講習会		10/20 (土) 東広島市オリエンテーションバスツアー
10/22-10/26		10/26 (金) 広島市	10/26 (金) 4:30ホストファミリー対面式 10/27 (土) 防災オリエンテーション
10/29-11/2			11/3 (土) 公休日
11/5-11/9			
11/12-11/16	11/15 (木) 第1回試験	11/16 (金) 宮島	
11/19-11/23			11/23 (金) 公休日
11/26-11/30			
12/3-12/7			
12/10-12/14	「専門用語解説」開始		
12/17-12/21	12/20 (木) 第2回試験		
12/24-1/7	冬休み		
1/8-1/11			
1/14-1/18			1/14 (月) 公休日
1/21-1/25		1/25 (金) マツダ	
1/28-2/1	1/31 (木) 第3回試験		
2/4-2/8			
2/11-2/15			2/11 (月) 公休日
2/18-2/22			
2/25-2/27	2/25 (月) 第4回試験 2/26・27 (火・水) 特別講義		
3/1	13:00成果発表会 (教育学部第3・第4会議室) 15:00修了式 (＃)		

講師一覧

第32期 (2001年4月～2001年9月)

専任	浮田 三郎	グリーク・リール	玉岡 賀津夫	多和田 眞一郎
	中川 正弘	深見 兼孝		
非常勤	今石 正人	尾形 典子	茅本 百合子	佐藤 道雄 (9月)
	橘 孝司 (~7月)	宮岡 弥生		

[専門用語解説]

相原 和邦 (教育学部)、相原 玲二 (総合情報処理センター)、安藤忠男 (生物生産学部)、浮田 三郎 (国際協力研究科)、太田 伸二 (機器分析センター)、岡田 光正 (工学部)、小篠 敏明 (教育学部)、近藤 勝彦 (理学部)、齊藤 公男 (国際協力研究科)、酒井 弘 (教育学部)、佐藤 尚子 (教育学部)、世良 正文 (先端物質科学研究科)、田中 秀樹 (生物生産学部)、谷本 忠明 (教育学部)、中越 信和 (総合科学部)、中佐 啓治郎 (工学部)、中園 和仁 (国際協力研究科)、長沼 毅 (生物生産学部)、樋口 聡 (教育学部)、升島 努 (医学部)、三浦 道子 (先端物質科学研究科)、宮崎 誠一 (先端物質科学研究科)、室賀 清邦 (生物生産学部)、吉田 英人 (工学部)、

第33期 (2001年10月～2002年3月)

専任	浮田 三郎	グリーク・リール	玉岡 賀津夫	多和田 眞一郎
	中川 正弘	深見 兼孝		
非常勤	今石 正人	尾形 典子	茅本 百合子	佐藤 道雄
	宮岡 弥生			

[専門用語解説]

朝倉 淳 (教育学部)、池田 秀雄 (教育学部)、池野 範男 (教育学部)、植田 敦三 (教育学部)、金原 達夫 (国際協力研究科)、古賀 信吉 (教育学部)、小松 正昭 (国際協力研究科)、小山 正孝 (教育学部)、杉山 政則 (医学部)、竹村 信治 (教育学部)、田畑 佳則 (国際協力研究科)、鳥越 兼治 (教育学部)、西野 信博 (工学部)、前原 俊信 (教育学部)、松崎 寛 (教育学部)、森 敏昭 (教育学部)

日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を加え、日本語研修（「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修）、日本文化特別講義・見学プログラム、指導教官のもとでの個別指導および課題研究から構成されている。

研修生は研修の終わりに研修成果をレポートにまとめ、指導教官と留学生センターに提出する。留学生センターではそれらのレポートをまとめ、レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第16期の研修留学生の出身国、男女比の構成は次の通りであった（10月渡日学生のみ。括弧内は、うち部局間協定に基づく教育学部受け入れ人数。）。

男子6（1） 女子9（1）

出身国

インドネシア2、トルコ1、アメリカ合衆国1、チェコ1、ハンガリー1、スロヴェニア1、韓国3、中国4（1）、イギリス1（1）

<特別講義等>

平成12年度後期および、平成13年度前期に実施された00年度（第16期）日本文化特別講義・見学プログラム、および、その他の行事は、以下の通りである。

2000年

10月13日（金）日本語・日本文化研修プログラムオリエンテーション

10月14日（土）西条バスツアー

10月20日（金）広島見学&ホストファミリー対面式

11月3日（金）～5日（日）青年全国集会「文化を作る」（江田島）

11月10日（金）特別講義「日本語学入門」（留学生センター石原講師）

11月17日（金）宮島見学

12月1日（金）特別講義「日本文学」（教育学部相原教授）

12月8日（金）広島大学付属小学校との合同プログラム

12月15日（金）「土木の日建設省バスツアー」

2001年

1月14日（金）特別講義「筆順史」（教育学部松本助教授）

2月2日(金) マツダ見学

3月21日(水)、22日(木) 特別講義「しまなみ・瀬戸内地域見学旅行」

7月28日(土)、29日(日) 特別講義「松江・出雲地域歴史文化見学旅行」

平成 13 年度指導部門活動報告および 大学留学生満足度調査の概要的な結果報告

広島大学留学生センター指導部門

助教授 玉岡 賀津雄

講師 中矢 礼美

はじめに

広島大学の留学生数は、平成 13 年 11 月 1 日現在で、これまで目標としてきた 700 名を大きく上回って 799 名という数にいたった。それに伴って、宿舎、アルバイト、携帯電話など、生活面での情報提供の必要性が高まるだけでなく、進路や研究上および人間関係のトラブル、留学生自身による犯罪、交通事故および違反などの問題に対処する機会も増加している。

特に、留学生の増加に伴い、指導教官が宿舎や携帯電話の保証人になることが難しくなっていることから、平成 11 年度より広島モデル地域の留学生支援事業の一環として広島地域留学生住宅問題連絡協議会に参画して「保証人を無くす」制度を推進している（補記の資料を参照）。携帯電話の保証人問題については、広島大学生協が特定会社の携帯電話については保証人を必要としないなどの措置を取っており、このような情報についても留学生に対してオリエンテーションや各種広報を通じて情報提供を行なっている。

このような状況において、全学の留学生を統括する留学生センターの役割はますます重要になってきている。そこで、本年度はより効果的なオリエンテーションの開発と実践を継続して行い、さらに前期 1 回、後期 1 回と全学留学生を対象とした満足度調査を行い、その対応に尽力を尽くした。本稿では、これらの活動の詳細について、まず平成 13 年度の活動を前期と後期に分けて時系列的に報告する。次に、本年度行なった第 1 回目の留学生満足度調査について全体的な結果を報告する。

2. 平成 13 年度の指導部門活動報告

指導部門の日常的な指導・助言活動の業務（補記の留学生相談のポスターを参照）などを除いて、主にオリエンテーションを中心とした指導部門の平成 13 年度の活動は以下のようなものであった。なお、2000 年度より 7 段階からなるオリエンテーションを約 1 カ月に渡り実施している。その詳細は、玉岡(1999a)と玉岡・金田(2000)を参照のこと。

平成13年度前期の活動

平成13年度の留学生受け入れのための準備は、平成12年度の3月から始まっている。

3月上旬－ボランティア・チューターの募集

平成10年6月の国際交流ボランティア制度の発足(詳細は、玉岡, 1999bを参照)以来、Eメールでボランティア・チューターを募集している。とりわけ、日本語研修生の多くは日本語がまだ不十分なため、英語でコミュニケーションを図ることになる。特に、アジア圏からの留学生の多くが英語を話すことができるので、英語のできるボランティアが必要である。

3月29日(木)－ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

国際交流ボランティアの希望者から選ばれたボランティア・チューターのために、留学生の外国人登録、銀行口座、ガス・電気、電話、各種保険、健康診断、一時帰国、アルバイト(資格外活動)などについて、オリエンテーションを2時間に渡って行った。つまり、ボランティア・チューターに、書類作成、生活上の諸注意など留学生が直面する多様な問題を知っておいてもらうためのオリエンテーションである。これによって、各ボランティア・チューターが留学生の質問に答えられるように準備しておくことができる。大まかなアウトラインを説明した後、ボランティアチューターの希望に基づいて自分達で、どの留学生のチューターになるかを決めもらった。

4月2日(月)～4月6日(金)－新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

国際交流ボランティアのチューターと共に JR 東広島駅で留学生を迎えた。その日のうちに外国人登録や国民健康保険など基本的な書類を作成し、国際交流会館周辺の交通機関、病院、警察、市役所、スーパー、レストランなど、すぐに必要と思われる情報について基本的なオリエンテーションを行った。広島大学に来て初日の経験であるため、第一印象を良くするよう、朗らかな対応を心がけている。その際、広島大学留学生センター発行の『広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド』(第2版)を配布した。

4月9日(月)－国際交流会館生活オリエンテーション

日本語研修生全員と一部の日本語・日本文化研修プログラムの留学生および他の国際交流会館に住んでいる留学生(留学生センター所属以外の留学生)に対して、国際交流会館に住むためのオリエンテーションを国際交流会館2階で行った。家賃の支払い、ゴミの出し方、電話の使用、郵便物の受け取り、長期の不在など、さまざまな生活上の留意点を詳細に説明した。なお、このオリエンテーションには、学術交流で広島大学に来ている研究者(国際交流会館C棟に居住)も含まれている。

4月9日(月)ー全学留学生オリエンテーション

2000年度前期(4月)より全学の留学生を対象としたオリエンテーションを始めた。今年度は2年目になる。はじめて新しく広島大学へ留学してきた学生のために、日本語と英語によるオリエンテーションを行った。このオリエンテーションでは、留学生相談、ハラスメント相談、健康保険、一時帰国、アルバイト、車の購入、駐車証明など、生活全般の説明を行った。

なお、防犯対策として広島大学留学生センターでは、『防犯を防ぐために(To Prevent Crimes)』(1999)という日本語と英語の対訳のパンフレットを作成しており、これを配布して、戸締り、泥棒、ひったくり、自転車泥棒、スリ、性犯罪防止対策などについて説明を行っている。この問題に対する対応は広島県警察本部広報課でも、『県民のまもりー広島の警察』を日本語と英語の対訳で出版し、配布して、外国人居住者のために情報を提供などを行なっている。

4月10日(火)ー日本語研修コース・オリエンテーション

日本語研修コースが始まる前に、日本語研修コースのカリキュラム、教科書、日程、テストなどのオリエンテーションを留学生センターの日本語教育部門が行った(詳細は、日本語教育部門の活動報告を参照)。指導部門もこのオリエンテーションに参加して、必要な説明を行った。

4月14日(土)ー東広島市オリエンテーション・バスツアー

バスを1台借りて、東広島市のオリエンテーションのためのバスツアーを行った。広島大学の東広島地区のキャンパス全体や各種の施設、市役所、病院、郵便局、図書館、スーパー、西条駅、空港などを回りながら、利用方法などについて説明した。これは、大学およびその周辺の環境を体験的に知ってもらうという企画のオリエンテーションである。2001年度は特に、バス、列車、新幹線、航空機の交通機関の使用法に重点をおいて説明した。

4月26日(木)ー健康管理オリエンテーション

このオリエンテーションでは、日本の健康保険の仕組みについて説明した。留学生が病院で診察や治療を受けた場合、国民健康保険が、治療費の70パーセントを補助し、さらに、日本国際教育協会(AIEJ)の外国人留学生医療補助制度により、留学生負担分の30パーセントの内80パーセントまで補助することができる(詳細は、広島大学留学生センター、2000を参照)。その結果、留学生の負担分が、治療費のわずか6パーセントになることを説明した。その際、日本国際教育協会が発行している『留学生のための健康のしおり』(第2刷、1999年)を配布して、説明に利用している。また、東広島市にある主な病院および外国語が通じる病院についての一覧表を配布して、情報提供の徹底を計った。さらに、健康診断に必要な書類の記入を英語で説明し、保険証といっしょに携帯するよう指導した。

4月26日(木)ー留学生センター教官および留学生専門教育教官等連絡会

各種オリエンテーションの報告および案内を行い、各部局での留学生への対応やチューターオリエンテーションに必要なガイドブックのニーズを聞くなどした。また、本年度の連絡会の進め方について討議した。

4月28日(土) 防災・消防オリエンテーション

春と秋の年2回、留学生がある程度生活に慣れてきて、来日後1ヵ月くらい経った時期に、賀茂広域消防署の協力を得て、国際交流会館で消防訓練を行っている。梯子車による7階からの脱出訓練、消火器操作訓練などの実地訓練を含んでおり、訓練を通して、留学生に防災の知識が身につくように努めている。

5月23日(水) 広島地域留学生団体育成支援協議会

広島地域レベルでは、広島地域留学生団体育成支援協議会で広島地域の大学関係者などが集まって、留学生関連の問題、支援、交流、研修などを実施してきた。これは、モデル事業が終了した2001年度も継続している。ほぼ2カ月に1回くらいの割合で開催し、地域レベルでの留学生支援を行っている。

5月24日(木) 国立大学留学生指導研究協議会

全国レベルでは、国立大学留学生指導研究協議会において、1年に2回の会議、同協議会のインターネットによる情報交換をおこなってきた。今回は、東京大学にて協議会が開かれた。

6月29日(金) 平成13年度第2回留学生センター運営委員会および第2回留学生センター教官および留学生担当専門教育教官等連絡会合同会議

広島大学内では、2000年度より本格的に広島大学留学生担当専門教育等連絡会が始まった。2000年度は、長期休暇を除いて、ほぼ毎月、連絡会を行った。今回は、第1回の留学生満足度調査の結果を報告した。詳細は、本稿の第3章と補記、二宮・玉岡・中矢、(2001)およびTamaoka, Ninomiya & Nakaya (submitted) を参照のこと。

2.2 平成13年度後期課程の活動

前期と同様、後期も新渡日留学生に対する一連のオリエンテーションおよびさまざまな大学や地域の行事を実施した。

9月28日(金) ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

10月1日(月)～10月10日(水) 新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

10月9日(火) 国際交流会館生活オリエンテーション

- 10月9日(火) 全学留学生オリエンテーション
- 10月18日(木) 健康管理オリエンテーション
- 10月20日(土) 東広島市オリエンテーション・バスツアー
- 10月27日(土) 防災・消防オリエンテーション

10月23日(火) 第三回学生支援連絡会にて留学生満足度調査の報告

留学生満足度調査の結果とその後の対応について、報告を行った。留学生の現状について広く学内の関係者に伝えることで、直接間接的に問題解決へ近づくことが可能になるとともに、留学生の問題、不満にいかに対応していくかについて、各方面からの助言を得ることができた。

11月2日(金)～11月4日(日)ー平成13年度日本人と留学生の青年の国際交流

江田島「青年の家」の主催による、日本人と留学生の交流合宿を2泊3日で江田島「青年の家」で行った。スポーツ大会、野外料理、討論会など、2日間に渡りいろいろな活動を留学生と一般の日本人参加者とで行った。広島大学以外の多様な人達との出会いがあり、留学生の日本文化理解に大きく貢献した。

11月17日(土) 広島地域留学生会の総会および講演会・交流会

今年度は、松永ライオンズクラブの30周年記念事業と合わせて、大規模な広島地域留学生会の総会が福山大学で開催された。広島大学からもマイクロバスで留学生を引率した。留学生に関する記念講演では、活発な質疑応答があり、有意義な意見交換がなされた。また総会での新規役員紹介や交流会を通して、広島地域の留学生のネットワーク形成が図られた。

12月7日(金) 国立大学留学生指導研究協議会

前期に東京大学で行われた協議会が、後期には大阪大学で開催された。今回は、大阪大学の吹田キャンパスで、21世紀の留学生交流施策と期待される留学生指導、大学評価、独立行政法人化の問題が議論された。

12月12日(水) 広島大学学長主催・広島大学外国人留学生懇親会

毎年恒例となった留学生交流会が、ホテルグランヴィア広島の4階「悠久」で行われた。今回は、学長挨拶、来賓紹介、来賓代表挨拶、留学生代表挨拶、乾杯、食事・歓談に続いて、留学生および日本人のアトラクションが行われた。(アトラクションの内容は添付資料を参照)広島大学留学生センター指導部門は、会場の設営、プログラムの作成、アトラクションの企画・運営を行った。本部の留学生課との共同作業による本懇親会には、約1000名に上る留学生お

よび日本人が参加した。

12月19日(水)および平成14年1月29日(火) 広島地域留学生団体育成支援協議会
広島市留学生会館にて、留学生を支援するための協議会が行われた。

12月21日(金) 広島大学留学生センター講演・討論会

講演・討論会では、留学生の危機管理をテーマとして議論した。また、午後には指導部門の分科会を行った。その資料は、補記を参照のこと。

2月1日(金) 留学生専門教育教官等連絡会

「危機管理のネットワークの改善」と題して、ストーカー行為をめぐる事例と万引きの容疑で警察に取り調べを受けた留学生の事例をもとに議論した。具体的な問題をあげてその対応を話しあうことで、学内および学外のネットワークをどう改善するかを話しあった。

3月18日(月) 広島大学留学生センター指導部門主催・講演討論会

「留学生支援」をテーマに掲げ、午前の部では、広島大学留学生センターが行ってきた2回の満足度調査に基づいた報告を行った。また、留学生の自由記述欄についての対応も報告した。さらに、午後の部では、イスラム文化圏からの留学生のための支援について議論した。プログラム、参加者名簿および発表資料は、補記を参照のこと。

3 第1回広島大学留学生満足度調査の概要的な結果報告

(第二回の報告については、補記の講演討論会発表資料を参照のこと)

調査の方法

広島大学留学生課より入手したリストに従って、広島大学に登録した留学生750名(2001年5月1日の広島大学留学生数に関する公式発表は758名であるが、入手したリストは750名)全員に質問紙を配布した。この内、質問紙に回答したのは309名であった。これらの回答者の学籍は、大学院生が196名、学部生が27名、研究生が65名、その他が11名であった。5名の留学生は記述がなかった。出身国・地域は、中国が119名、韓国が31名、台湾が9名、マレーシアが10名、インドネシアが27名、その他が111名、無記入が2名であった。男性は、161名、女性が144名である。また、私費の留学生が151名、国費の留学生が149名で、無記入が4名であった。留学生309名の平均年齢は、29歳8カ月で、標準偏差は4歳9カ月であった。各留学生の名前を記入した封筒に、質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて、留学生の管理部門から配布していただいた。また、各管理部門には、質問紙の回答箱を用意して、入れられる

ようにした。さらに、返信用の封筒の表に留学生センター長の名前が印刷されていたので、学内便でも返送が可能であった。有効回答率は、質問紙を配布した広島大学留学生 750 名のうち 309 名の回答があった。したがって、全体の有効回答率は、41.2 パーセントであった。

質問紙と満足度

質問紙には、留学生の属性として、性別、年齢、出身国・地域、学籍、所属、私費・公費を記入する欄を設けた。質問は、留学生が不満を抱きそうな項目について 10 種類(補記を参照)に絞って、「全くそう思わない」が 0 点、「そう思わない」が 1 点、「どちらとも言えない」が 2 点、「そう思う」が 3 点、「とてもそう思う」が 4 点で集計した。また、総合的に判断して、広島大学での学習と生活に満足しているかどうかを、「はい」または「いいえ」で答えてもらった。不満足であると回答した留学生は、35 名であった。309 名のうち 12 名の満足・不満足は無記入者を除いて、88.2 パーセントの満足率(297 名中 262 名が満足)、あるいは 11.8 パーセントの不満足率(297 名中 35 名が不満足)であった。

分析の概要

10 種類の質問について、0 点から 4 点までの連続変数であると仮定して、平均、標準偏差、変数間のピアソンの相関係数を算出した(補記の表 1 を参照)。10 種類の質問について、因子分析を行った(補記の表 2 を参照)。留学生の満足・不満足を 10 種類の変数で予測する判別分析を行った(補記の表 3 と表 4 を参照)。また、研究・学習環境の因果関係モデルを作成した(補記の図 1 を参照)。さらに、各学部・研究科ごとの満足度を報告した(補記の表 5 を参照)。また、120 名の留学生が自由記述欄に質問を書き添えており、その内の 116 名が問題を提起していたので、それを分類して対応の一覧表を作成した。奨学金および経済的な問題が多量の留学生から指摘されているので、奨学金の支給率を表 6 に示した。指導部門からの連絡を希望した留学生については、もれなく全員に Eメールまたは電話で、また必要に応じて面談によって対応した。ちなみに、この内の 30 名が不満足であると回答した留学生である。留学生が指摘した問題については、一覧を本稿の補記表 7 に示した。

4. 平成 14 年度にむけての活動指針

全留学生にもれなく対処し、職務の遂行に万全を期するためには、効率良く機能する対応策と制度を確立していかなばならない。そのためには、上記のような問題や活動に対して、以下のような制度および活動の充実が必要であろう。

第 1 に、留学生に対するオリエンテーション、印刷物、ホームページなどによる多様な情報提供メディアの確立を進めなくてはならない。一言言えばよいというのではなく、多様な方法で何度でも、またさまざまな方法で留学生が情報にアクセスできるような制度を確立しなくてはならない。これについては、平成 11 年度から、7 段階から成るオリエンテーション・プログラ

ムを作り、外国人登録や健康保険など基本的な書類の作成、交通機関、病院、警察、市役所、スーパー、レストランなどを紹介する「渡日時オリエンテーション」、広島大学のある東広島地区のキャンパス全体や各種の施設、市役所、病院、郵便局、図書館、スーパー、西条駅、空港などを回りながら利用方法などについて説明する「東広島市のオリエンテーション・バスツアー」、健康保険、病院、支払いなどについての「健康管理オリエンテーション」、消防訓練を含む「防犯オリエンテーション」など、多様なオリエンテーションを実施している。また、留学生が自分で情報にアクセスすることができるよう『広島大学・留学生キャンパスライフ・ガイド』を日本語と英語で印刷し、全留学生に配布している。しかし、近年の広島大学および近隣の地域の変化はめまぐるしく、半年で情報が古くなってしまいうため、毎年、情報を更新していかなければならない。それに対応するために、平成13年5月より、指導部門と地域ネットワークの二つのホームページを開設した。これによって、印刷物の更新と共に、インターネットでも最新の情報にアクセスできるようになった。これらのオリエンテーションと、情報の更新と提供は、指導部門の重要な活動であると考え、今後一層の拡充を図りたい。

第2に、全留学生を対象にして、心理的な問題を抱えている留学生を抽出する方法を確立しなくてはならない。つまり、心の健康状態の把握である。平成13年度前期より、広島大学留学生全員を対象とした満足度調査を実施した。これにより、広島大学に関する留学生全体の満足度を、多様な視点から学部・研究科別に把握することができるようになった。質問紙には自由記述欄を設けて、そこで問題や不満な点を記述してもらい、留学生センターの指導部門からの直接の対応を希望する場合には、名前・電話・メールを記載することをお願いした。そして、指導部門はこれらすべての留学生に、電話・メール・面接で対応した。これは、臨床心理学では「スクリーニング」と呼ばれる手法であり、すべての留学生から問題のある留学生を抽出して対応するという方法である。この調査と直接対応を組み合わせたアプローチにより、留学生の全体的な把握と個別の対応とが同時にできるようになった。今後、質問紙の適切な質問項目の選択、問題を訴えてきた留学生についてのカウンセリングについてもより充実した方法を模索しなくてはならない。

第3に、国際化する社会における広島大学の位置付けを想定して、留学生と日本人学生および地域社会との活発な国際交流の支援をしていくことである。これには、平成10年度に立ち上げた国際交流ボランティア制度の活用が一つある。広島大学に所属する学生・大学院生・研究生が、有償・無償のチューターとして新渡日留学生を助けたり、会話パートナーとして互いに語学を教えあったり、国際交流活動を行うためのボランティア制度である。ボランティア間のコミュニケーションの手段として、インターネットによる連絡網を作り、円滑かつ効率のよいコミュニケーションを図っている。国際交流ボランティアの発足によって、総合的な留学生支援と交流が展開できるようになった。さらに今後は、留学生側から働きかけるボランティア制度を確立していくつもりである。留学生の中には、自分達の文化や芸能を紹介したり、自分達の言葉を教えたりすることを積極的に申し出る者もいる。そうした留学生を登録して、ネット

ワークを作り、大学および地域社会からの要請に合わせて紹介し、国際交流の場が持てるように制度化していく必要がある。

第4に、学内における留学生支援ネットワークの再構築である。学内には、日々留学生支援を行なっている留学生課、各部局の留学生専門教育教官、留学生担当係および保健管理センター教官が存在する。留学生センターは、これら留学生教育関係者らと情報交換や協力を密に行なうシステムと文化を再構築し、より効果的な留学生支援を推進していかなければならない。その点で本年度2月に行なった連絡会は大変有意義であり、来年度の協同体制に向けて基本的合意を得ることができた。来年度はさらにこのネットワークを深くまた広げるための活動を行なっていく予定である。

以上、むろん日々の留学生指導やカウンセリングは当然の活動とした上で、留学生の増大を迎えての留学生支援システムの改善という視点から、平成14年度の活動指針として上記4点を挙げた。

引用文献

岡益巳・玉岡賀津雄（印刷中）．留学生センターからみた留学生専門教育教官との連携について．

留学生交流・指導研究，国立大学留学生指導研究協議会．

広島県警察本部広報課（未記入）．*県民のまもりー広島の警察* 広島：広島県警察本部広報課
広島大学留学生センター（1999）．*犯罪を防ぐために（To Prevent Crimes）* 東広島：広島大学
留学生センター

広島大学留学生センター（2000）．*広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド*．東広島：広島
大学留学生センター

日本国際教育協会（1999，第2刷）．*留学生のための健康のしおり*．東京：日本国際教育協会
事業部学生生活課保健係．

二宮皓・玉岡賀津雄・中矢礼美（2001）．*平成13年度前期広島大学留学生の学習と生活に対する満足度調査* 平成13年度第2回留学生センター運営委員会および第2回留学生センター教官・留学生専門教育教官等連絡会合同会議，東広島地区（事務局5F1会議室）・広島地区（歯学部小会議室）．平成13年6月29日（金）15:00～17:00．

玉岡賀津雄（1999a）．留学生指導部門：「対処」型の支援活動から「予防」型の交流活動への転換 *留学生教育*，3，112-121．

玉岡賀津雄（1999b）．国際交流ボランティア制度の導入による留学生の指導・助言活動の新しい展開．*1998年度広島大学留学生センター講演・討論会報告書「二十一世紀の留学生教育に向けて」*（pp. 29-37）．東広島：広島大学留学生センター．

玉岡賀津雄・金田智子（2000）．留学生指導部門：各種オリエンテーションの充実と平成11年

度指導, 留学生教育, 4, 99-109.

玉岡賀津雄・堀田泰司・金田智子・石原淳也 (2001). 学生チューターハンドブック. 東広島:
広島大学留学生センター.

Tamaoka, K., Ninomiya, A., & Nakaya, A. (submitted). What makes international students
satisfied with a Japanese university? 留学生交流・指導研究, 国立大学留学生指導
研究協議会.

これは、広島大学留学生の学習と生活に対する満足度についての調査です。調査の結果は、留学生の学習と生活の改善に役立たいと思います。この調査によって、プライバシーが侵害されることはありません。どうか、ご協力をお願いします。書き終えたら、同封の返信用封筒に入れて封をし、5月25日(金)までに各学部の回収箱に入れてください。よろしくお願いします。

平成13年5月11日(金)

調査代表者 広島大学留学生センター長
 調査担当者 留学生センター助教授
 調査担当者 留学生センター講師

二宮 皓
 玉岡 賢津雄
 中矢 礼美

I あなたのことについて、あてはまる数字に○をしてください。

- 性別: 1. 女性 2. 男性
- 年齢: () 歳
- 出身国: 1. 中国 2. 韓国 3. 台湾 4. マレーシア 5. インドネシア 6. その他()
- 学籍: 1. 学部学生 2. 大学院生 3. 研究生 4. その他()
- 所属: 1. 総合科学部 2. 文学部・研究科 3. 教育学部・研究科 4. 法学部・研究科 5. 経済学部
 6. 理学部・研究科 7. 医学部・研究科 8. 歯学部・研究科 9. 工学部・研究科 10. 国際協力研究科
 11. 社会科学部研究科 12. 生物園科学研究科 13. 留学生センター 14. その他()
- 私費・国費: 1. 私費留学生 2. 国費留学生

II 広島大学に関する以下の内容について、あてはまる回答の数字に○をしてください。

(1) わたしは、大学の授業がよく分かる。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(2) わたしの大学での研究(学部生は卒業論文)は、うまく進んでいる。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(3) わたしは、大学の施設(図書館・食堂など)が使いやすいと思う。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(4) わたしの指導教官の指導は、適切である。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(5) わたしは、大学のカリキュラムが自分に合っていると思う。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(6) わたしには、ともに生活を楽しめる良い友達がいる。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(7) わたしの住んでいる部屋や場所は、住みやすい。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(8) わたしは、日本の生活にうまく適応している。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(9) わたしは、アルバイトに多くの時間を使っている。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

(10) わたしは、自分の言いたいことを、日本語で言える。
 1 | 2 | 3 | 4 | 5

III あなたは、総合的に判断して、広島大学での学習と生活に満足していますか。 1. はい 2. いいえ

IV 現在、あなたの学習と生活になにか問題がありますか。もしあれば、自由に書いてください。

もし、その解決のために、こちらからの連絡をご希望であれば、あなたの名前と連絡先を下に書いてください。

A Survey on the Satisfaction of Learning and Living of International Students at Hiroshima University

The First Semester of the Year 2001

This survey is designed to investigate the level of satisfaction of living and learning of international students at Hiroshima University. The results of this survey are intended to be used for the benefit of international students and the privacy of those contributing will be protected. Please insert completed surveys into the attached envelope and deposit them in the collection box (located in each faculty) by Friday, the 25th of May.

May 11, 2001

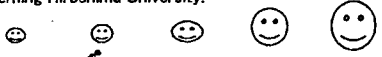

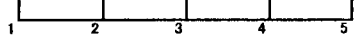
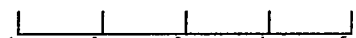
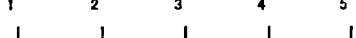
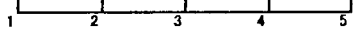
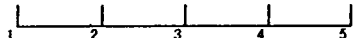

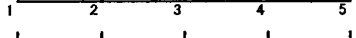
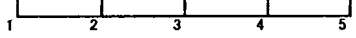
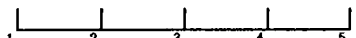
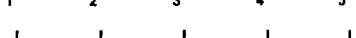
Research Head, Director of International Student Center
 Researcher, Associate Professor of International Student Center
 Researcher, Lecturer of International Student Center

Akira Ninomiya
 Katsuo Tamaoka
 Ayami Nakaya

I Please circle the number that applies best to you.

- Gender 1. Female 2. Male
- Age: ()
- Home Country: 1. China 2. Korea 3. Taiwan 4. Malaysia 5. Indonesia 6. Other ()
- Student Status: 1. Undergraduate 2. Graduate 3. Research Student 4. Other ()
- Faculty: 1. Integrated Arts and Sciences 2. Letters 3. Education 4. Law 5. Economics
6. Science 7. Medicine 8. Dentistry 9. Engineering 10. International Development and Cooperation (IDEC)
11. Social Sciences 12. Biosphere Science 13. International Student Center
14. Other ()
- Funding: 1. Private 2. National Scholarship

II Please circle the most applicable number in response to the following statements concerning Hiroshima University.

	
	
(1) · I understand the classes I take at university.	
(2) · My research (graduate thesis for undergraduate students) is progressing well.	
(3) · The university facilities (library, cafeteria, etc) are easy to use.	
(4) · My supervisor's advice is helpful.	
(5) · The university's curriculum is well suited to me.	
(6) · I have a good friend to enjoy life with.	
(7) · I enjoy the housing conditions and environment of the place where I live.	
(8) · I am well adjusted to life in Japan.	
(9) · I spend a lot of time at part-time jobs.	
(10) · I can say what I want to in Japanese.	

III Overall, are you satisfied with your living and at learning Hiroshima University 1. Yes 2. No

IV Please make comments concerning any problems that you may currently be facing related to living or learning.

If you desire us to make contact with you in order to aid in the resolution of these problems, please write your name and contact information below.

Thank you for your cooperation.

表1 留學生の満足度調査の質問項目間の相関、平均および標準偏差

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1 授業	300	—								
2 研究	294	0.34 **								
3 施設	303	0.10	0.22 **							
4 指導教官	303	0.17 **	0.42 **	—						
5 カリキュラム	301	0.29 **	0.31 **	0.24 **	—					
6 友人	301	0.23 **	0.21 **	0.23 **	0.19 **	—				
7 住居	305	0.14 *	0.18 **	0.21 **	0.12 *	0.31 **	—			
8 文化適応	304	0.28 **	0.29 **	0.13 *	0.20 **	0.23 **	0.29 **	—		
9 アルバイト	302	-0.05	-0.04	-0.07	-0.11 *	-0.08	-0.17 **	-0.12 *	—	
10 日本語能力	304	0.32 **	0.16 **	0.01	-0.05	-0.03	0.01	0.24 **	0.17 **	—
平均	0.58	0.53	0.98	1.20	0.53	0.74	0.79	0.71	1.22	0.34
標準偏差	0.96	0.93	0.89	0.80	0.93	0.96	0.95	0.87	1.07	1.08

注1: * $p < 0.05$ ** $p < 0.01$.

注2: 1から10までの質問項目の得点は、2から-2までの変数である。第9項目のアルバイトに関する質問は、逆転項目である。

注3: 全体の被験者数は、309であるが、各質問ごとに無回答があるので、被験者数がそれぞれ異なる項目で異なっている。

表2 留学生の満足度調査の質問項目に関する因子分析

質問項目	第1因子 (F1) 学習・研究因子	第2因子 (F2) 生活・適応因子	第3因子 (F3) 日本語能力因子	共通性
2 研究	0.7518	-0.0965	0.1237	0.5440
4 指導教官	0.6443	-0.0097	-0.1432	0.3871
5 カリキュラム	0.4515	0.1015	-0.0966	0.2491
1 授業	0.4297	0.0727	0.3247	0.3093
6 友人	0.0108	0.6255	0.0207	0.4070
8 文化適応	0.0394	0.5719	0.1464	0.4270
7 住居	-0.0030	0.5240	-0.0723	0.2560
9 アルバイト	-0.0283	0.3031	0.2658	0.1223
10 日本語能力	-0.1049	-0.0010	0.8518	0.6951
3 施設	0.2928	0.1566	-0.0714	0.1506
累積寄与率(%)	27.92	13.53	11.43	
	27.92	41.45	52.89	

注1: n=309. 最尤法(さいゆうほう; maximum-likelihood method). Kaiser の正規化を伴うプロマックス法(promax solution).

注2: F1とF2の相関は0.56, F1とF3の相関は0.23, F2とF3の相関は0.29である。

表3 留学生の満足度を判別する有意な変数

判別変数(質問項目)	判別係数	マハラビス汎距離	F値	判定
カリキュラムの適切性	0.790	2.385	9.370	**
研究の進展	0.612	2.552	5.611	*
よき友人	0.608	2.548	5.701	*
文化適応	0.603	2.605	4.428	*
アルバイトの頻度	-0.448	2.576	5.064	*

注1: ステップワイズ法による判別分析。* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$.

注2: $n=309$, 309名の内、12名が満足・不満足に記入がなかった。従って、297名での分析した。

表4 留学生の満足・不満足の評別クロス表

推定群	実績群	
	満足	不満足
満足 ($n=262$)	216 82.4%	46 17.56%
不満足 ($n=35$)	8 22.86%	27 77.14%

注: 判別分析による的中率は、81.8%で、297名のうち243名が正しく判別された。

表5 広島大学に所属する留学生数、調査への回答者数、回答率および満足度 (n=309; 満足262名, 不満足35名, 無記入12名)

学部・研究科	所属留学生数(人)	回答者数(人)	回答率(%)	満足度(%)	総合満足度指数	主要満足度指数
総合科学部	16	6	37.5%	100.0%	0.7	0.8
文学部	19	8	42.1%	87.5%	0.9	0.8
教育学部	134	62	46.3%	76.6%	0.7	0.7
法学部	7	7	100.0%	71.4%	0.7	0.6
経済学部	16	15	93.8%	86.7%	0.8	0.6
理学部	29	13	44.8%	92.9%	0.9	0.9
医学部	50	24	48.0%	77.3%	0.7	0.7
歯学部	19	10	52.6%	80.0%	0.7	0.7
工学部	142	59	41.5%	84.2%	0.5	0.8
国際協力研究科	160	45	28.1%	90.0%	0.9	0.9
社会科学研究科	43	15	34.9%	100.0%	0.9	0.6
生物圏科学研究科	53	12	22.6%	100.0%	0.9	0.9
留学生センター	43	24	55.8%	85.8%	0.7	0.7
その他	19	9	47.4%	77.8%	0.9	0.9
合計	750	309	—	—	—	—
平均	—	—	—	—	0.76	0.76

注1: 広島大学に所属する留学生数は2001年5月1日現在で、750名である。これは、入手したリストがこの数値であったためであり、最終的な公の同年5月1日の集計は、758名と報告されている。

注2: 入手した留学生リストによると、留学生センターが管理部署となっている留学生数は43名であるものの、留学生センター所属は16名であった。そのため、留学生センターではなく、他の所属を記入した留学生がいたことが予想される。しかし、区別の方法がないので、留学生センターの所属留学生数は、43名とした。

注3: その他に該当するのは、生物生産学部6名と先端物質科学研究科の13名の留学生である。今後は、この両者も範疇を決めて調査していきたい。

注4: 総合満足度指数とは、10変数の得点の平均値である。また、主要満足度指数とは、判別分析で留学生の満足・不満足を決める有意な変数である。と判断された5つの変数の平均値である。

表6 広島大学の国費・外国政府・民間奨学金の支給率の推移

	(2001年7月16日調べ)					
	西暦	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
広島大学	国費	223	254	266	275	266
	外国政府派遣	38	38	32	38	38
	民間の奨学金	238	219	250	279	226
	私費	369	378	425	469	454
	全体	630	688	723	782	758
私費留学生に対する民間奨学金支給率		84.5%	57.8%	58.8%	59.5%	49.8%
国費・外国政府奨学金の支給率		41.4%	42.4%	40.2%	40.0%	40.1%
留学生全体に対する奨学金支給率		79.2%	74.3%	75.8%	75.7%	69.9%
日本全体	国費	8250	8323	8774	8930	-
	外国政府派遣	1524	1585	1542	1441	-
	私費	41273	41390	45439	53640	-
	全体	51047	51298	55755	64011	-
国費・外国政府奨学金の支給率		19.1%	19.3%	18.5%	18.2%	-

注1: 留学生数は、2001年を除き各年の11月1日集計の数値である。2001年は、5月1日の集計である。

注2: 外国政府派遣留学生は、マレーシア、インドネシア、タイ、シンガポール、アラブ主長国連邦、クウェイトおよびウズベキスタンの各国政府派遣留学生である。

注3: 民間の奨学金は、私費の留学生に対して支給されている。

注4: 2001年は5月の集計なので、奨学金の支給率が低くなっており、他の年との直接の比較はできない。

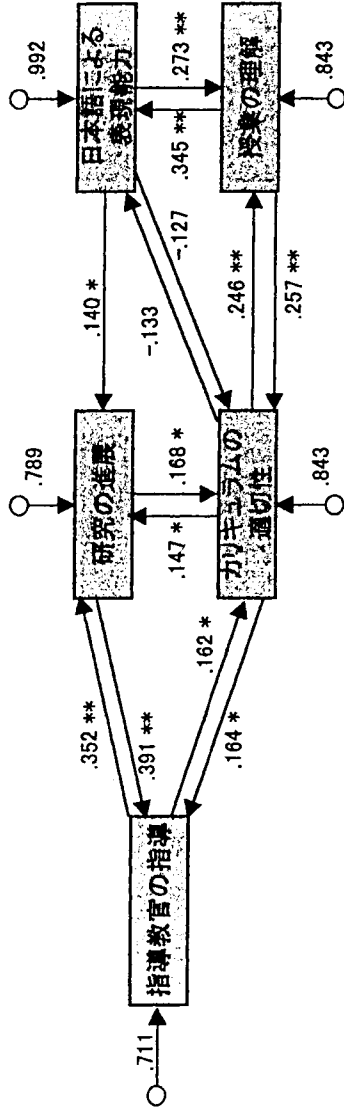


図1 留学生の大学における研究・学習環境の因果関係モデル

注1: 数値(パス係数)はステップワイズ法による重回帰分析の標準偏回帰係数(standard partial regression coefficient).
 注2: パス係数の検定はt値. 有意水準は, * $p < .01$ ** $p < .001$.

表7 留学生満足度調査自由記述で指摘された問題点

<表の見方> 例えば、1の「日本語学習・カリキュラム・教授法」という問題は、自由記述で6人の留学生が問題として指摘しているため、「頻度」を6と示している。「記述例」の27という数字は、問題を端的に示している自由記述の回答番号である。自由記述の27番をみると、「唯一申し上げたいのは、「日本語集中コース」についてです。というのは、授業を理解するのがとても難しく、教師のやり方は、暗記や機械的方法なので、適切ではないと思います。」と書かれている。

#	問題	頻度	記述例	対応部局	対応策
1	日本語学習・カリキュラム・教授	6	27	留学生センター	日本語学習・カリキュラム・教授法の見
2	日本語翻訳支援ボランティア	5	2	留学生センター	有償ボランティア制度の開拓
3	英語学習支援ボランティア	2	12	留学生センター	情報メディア教育研究センターへお願い
4	研究支援のための留学生の紹介	1	31	留学生センター	学生の紹介
5	交流	5	18	留学生センター	国際交流クラブ等の紹介
6	チューター	4	11	留学生センター	チューターへの助言の改善
7	友人	9	98	留学生センター	国際交流クラブ等の紹介
8	コミュニケーション	5	94	留学生センター	国際交流クラブ等の紹介
9	進路	1	80	留学生センター	個人面接
10	家族の健康ケア	1	70	留学生センター	情報提供・東広島市等へのお願い
11	家族の日本語学習支援	2	70	留学生センター	情報提供・東広島市等へのお願い
12	子どもの学校・教育	1	61	留学生センター	情報提供・助言
13	留学生センター図書室	1	29	留学生センター	既に問題解消
14	家主	1	16	留学生センター	助言
15	経済	11	39	留学生センター	適切なアルバイト紹介
16	学生寮入居システム	2	11	留学生センター	事情調査
17	施設利用方法	3	48	留学生センター	情報提供
18	大学規定、案内の明確化	1	30	留学生センター	問い合わせるように指導
19	指導教官	1	109	留学生センター	指導教官の理解を図る
20	異文化理解・他宗教の尊重	1	109	留学生センター	きの準備
21	研究指導	2	28	留学生センター	自己点検表などの検討
22	授業理解	4	48	留学生センター	自己点検表などの検討
23	教授方法	2	84	留学生センター	自己点検表などの検討
24	教授内容	1	100	留学生センター	自己点検表などの検討
25	差別感	1	101	大学・留学生センター	大学として研修の実施
26	孤独感	4	116	指導教官/留学生センター	留学生協会等の紹介
27	IT環境	6	29	大学・留学生センター	留学生センターでの対応を検討
28	事故処理	1	60	大学・各部局・留学生センター	支援
29	住居	8	46	チューター/留学生センター	住居探しに関する情報提供の改善
30	住居保証人	1	68	チューター/留学生センター	住居探しに関する情報提供の改善
31	アルバイト	11	115	大学/学生部	適切なアルバイト紹介を検討
32	中国人留学生以外の留学生への不公平感	1	8	大学	募集段階で基準等の明示
33	奨学金	19	8	大学	募集段階で基準等の明示
34	授業料免除	4	33	大学	募集段階で基準等の明示
35	学生寮	4	2	大学	募集段階で基準等の明示
36	研究環境(場所)	4	20	大学	
37	情報提供	6	43	大学・各部局	改善検討中
38	留学生センターパソコン室	2	11	各部局	改善の検討
39	大学院試験	2	105	各部局	検討
40	カリキュラム	1	20	各部局	検討
41	教授言語	6	57	当該部局	英語授業の拡充
42	研究	4	16	指導教官	
43	情報メディア教育研究センターの開閉時間	1	72	究センターの開閉時間	

44	図書館の蔵書	6	87	図書館	
45	図書館職員	1	66	図書館	
46	図書館利用システム	1	77	図書館	
47	図書館の閉館時間	2	15	図書館	
48	英語文献	1	55	図書館	
49	日本語のみの表示	2	27	図書館・各部局	
50	事務手続きの複雑さ	1	5	事務局	
51	事務員の対応	2	52	事務局	
52	事務員の英語能力	1	88	事務局	
53	家庭生活と研究の両立	1	13	個人の問題	
54	家族のための友人	1	70	個人の問題	
55	日本語能力	24	44	個人の問題	
56	サンスクエアの駐車場	1	6	サンスクエア	
57	施設の閉館時間	1	111	国際交流会館	
58	日本人の英語能力	3	66		
59	カウンセラー	1	82		

注1:「頻度」は、問題が自由記述に出た回数を示す。

注2:「記述例」の数字は、自由記述の回答番号であり、問題を最も端的に示している回答を示している。



留学生相談 Guidance Counseling for International Students

留学生のみならず、日常生活や学校のこと、対人関係などで困っていることはありませんか。ひとりで悩まずに、一度私たちのところへ相談に来てみてください。秘密は守ります。安心してご相談ください。

You may need someone to talk to about your problems regarding daily matters, personal relationships or your studies. Sometimes it helps to talk to someone rather than keeping your frustrations inside. Please feel free to come and see us by appointment or drop-in during times listed below. All consultation will be kept confidential.



13:00~16:00 (予約なしでも可)
13:00~16:00 (No appointment necessary)

玉岡 賀津雄 (たまおか かつお)
Katsuo Tamaoka, Ph. D.
月曜日から金曜日まで予約なしでいつでも可能
Any time from Monday to Friday with no appointment
E-mail: ktamaoka@hiroshima-u.ac.jp
Tel: 0824-24-6288



10:00~13:00 (予約なしでも可)
10:00~13:00 (No appointment necessary)

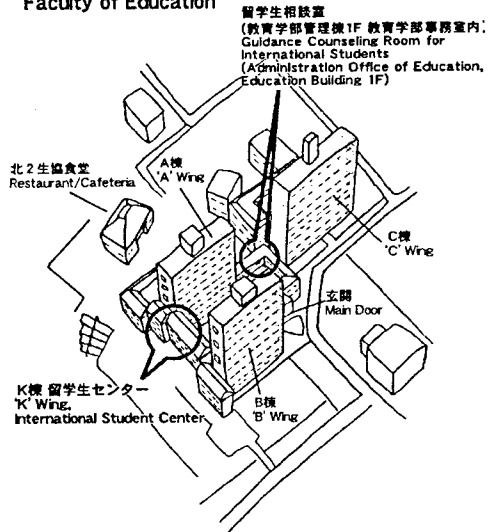
中矢 礼美 (なかや あやみ)
Ayami Nakaya, Ph. D.
月曜日から金曜日まで予約なしでいつでも可能
Any time from Monday to Friday with no appointment
E-mail: anakaya@hiroshima-u.ac.jp
Tel: 0824-24-6289



11:00~14:30 (予約なしでも可)
11:00~14:30 (No appointment necessary)

田路 慈子 (とうじ いつこ)
Itsuko Toji, M. Ed.
留学生相談室
(教育学部管理棟1F 教育学部事務室内)
Guidance Counseling Room for International Students
(Administration Office of Education, Education Building 1F)

教育学部 Faculty of Education



* 予約の必要はありませんが、田路相談員に会うための予約を入れた場合は、玉岡か中矢へ電話またはEメールでご連絡ください。なお、玉岡および中矢の相談は、各研究室で行います。玉岡はK306にて、中矢はK309にて行います。

* Although an appointment is not required to see Ms. Toji, one can be arranged by contacting Dr. Tamaoka or Dr. Nakaya by telephone or E-mail listed above. Dr. Tamaoka and Dr. Nakaya will meet you at their research rooms, Dr. Tamaoka at K306 and Dr. Nakaya at K309.

留学生にアパートを提供してください

広島県内の留学生の住居状況

- 広島県内には、約1,300名、65カ国の外国人留学生が学んでいます。
- 留学生用宿舎や大学の寮に入居できるのは約30パーセントで、半数近くの留学生が民間アパートで暮らしています。
- とくが、「外国人はちょっと・・・」と敬遠する方がいらっしゃるのも事実です。
- また、現在日本では、アパートに入居する時に保証人を必要としますが、留学生にとって、親はもちろん、知人もほとんどいない日本で保証人になってもらえる人を探すことは、大変なことです。
- このような状況にある留学生にとって、保証人が必要でなければ、生活上最も重要なアパート探しが容易に行え、広島での留学生生活を円滑に始めることができます。

アパートの保証人を必要としない体制

- 広島地域留学生住宅問題連絡協議会は、広島県内の大学、留学生、家主など地域の関係者が連携協力する「アパートの保証人を必要としない体制」を提案しています。
次のように、対応策を取っています。

家賃滞納	⇒	契約時に大学の対応窓口を明記した書類を提示しておき、滞納額が増えないように、大学と家主が密に連絡・協力して解決
火災等の損害賠償	⇒	留学生に火災保険への加入義務づけ
生活習慣等の指導	⇒	大学が、留学生や留学生の世話をするチューター・ヘオリエンテーション等で指導 「留学生のための民間アパート入居ガイド」（日・英・中・韓の4カ国語で作成）を配付
苦情の窓口・処理	⇒	契約時に明記した大学の対応窓口を通して、大学が留学生に直接理由を聞き、必要なアドバイス・指導等を徹底

「アパートの保証人を必要としない体制」で
留学生を受け入れていただければ幸いです。

広島地域留学生住宅問題連絡協議会事務局

広島大学学生部留学生課 TEL: 0824-24-6194, FAX: 0824-24-6179
E-Mail: ryugaku-etc@bur.hiroshima-u.ac.jp

広島地域留学生住宅問題連絡協議会は、(社)広島県宅地建物取引業協会、(社)全日本不動産協会広島県本部、広島大学消費生活センター、俄初内外学センター広島支部、広島大学留学生協会、広島大学、広島経済大学、広島修道大学等で構成され、広島県内の大学等に在籍する外国人留学生の住宅問題について協議し解決を図るために平成10年に設立された団体です。

「アパートの保証人を必要としない体制」についての資料等をお送りさせていただきますので、上記又は最寄りの大学等の留学生事務担当部署までご連絡ください。

要 請 書

留学生氏名(国籍) ; _____ (_____)

所属学部等 ; 広島大学

身 分 ; 学部学生, 大学院学生, その他(研究生等)

標記の者が、宿舎を探していますので御配慮いただきますようお願いいたします。

なお、広島地域で実施している「連帯保証人を必要としない制度」を利用したい意向ですので、併せて御配慮をお願いします。

また、家賃滞納などのトラブルを起こした場合、下記へご連絡いただければ、この制度により私及び本学の関係者からも指導いたします。

平成 年 月 日

指導教官

所属学部等 広島大学

氏 名 _____ ㊞

電話(大学) (0824) 24- _____

指導教官不在の場合の連絡先

所属部局の留学生担当係 電話(0824) 24- _____

この制度についての照会先

広島大学留学生センター指導部門 電話(0824) 24-6288

広島大学留学生課 電話(0824) 24-6194

どうすれば留学生を満足させるのか？

What makes International students satisfy?

場 所: 広島大学教育学部第3会議室 (2階) 無料, 参加自由

時 間: 2001年12月21日(金) 午後2時から午後4時50分まで

1. 接触場面における留学生の意識的配慮の検討

講師 東京成徳大学 一二三朋子 (HIFUMI, Tomoko) 先生

14:00~14:40 講演

14:40~14:50 質問 (14:50~15:00 休憩)

要旨: 留学生が日本語母語話者との接触場面で会話を行う時にどのような配慮を行っているかを、母語話者同士の場合における配慮と比較検討する。また、ボランティア教室に通う日本語学習者の配慮との違いも検討したい。参考文献: (1) 一二三朋子 (1999). 非母語話者との会話における母語話者の言語面と意識面との特徴及び両者の関連. *教育心理学研究* 47, 490-500. (2) 一二三朋子 (1995). 母国語話者と非母国語話者との会話における母語話者の意識的配慮の検討. *教育心理学研究* 43, 277-288. (3) 一二三朋子 (2000). 日本人との会話における外国人留学生の意識的配慮の検討. *東京成徳大学研究紀要* 7, 21-28.

2. 留学生のヘルパーに対する被援助志向性

講師 一橋大学 水野治久 (MIZUNO, Haruhisa) 先生

15:00~15:40 講演

15:40~15:50 質問 (15:50~16:00 休憩)

要旨: 留学生は日本人や大学関係者に援助を求めないと言われていています。ここでは、米国の研究動向と調査データを参考にしながら、①留学生の被援助志向性を高めていくにはどうしたら良いのか、②留学生の被援助志向性を尊重した援助方法について、考えていきたいと思えます。参考文献: (1) 水野治久・石隈利紀 (2001). アジア系留学生の専門的ヘルパー、役割的ヘルパー、ボランティアヘルパーに対する被援助志向性と社会・心理的変数の関連. *教育心理学研究* 49, 137-145. (2) 水野治久・石隈利紀 (2000). アジア系留学生の専門的ヘルパーに関する被援助志向性と社会・心理的変数の関連. *教育心理学研究* 48, 165-173. (3) 水野治久・石隈利紀 (1999). 被援助志向性、被援助行動に関する研究の動向. *教育心理学研究* 47, 530-539.

3. 留学生、及び、日本語学校生の対日態度形成

講師 早稲田大学 山崎瑞紀 (YAMAZAKI, Mizuki) 先生

16:00~16:40 講演

16:40~16:50 質問

要旨: 在日留学生の約90%を占めるアジア出身の留学生、日本語学校生が来日後、どのような対日態度を形成するのか、について、これまで行ってきた調査研究(多母集団の平均・共分散構造モデルを用いた対日態度形成因果モデルの構成)や事例研究をもとに、報告を行いたい。参考文献: (1) 山崎瑞紀・倉元直樹・中村俊哉・横山剛 (2000). アジア出身日本語学校生の対日態度及び対異文化態度の形成におけるエスニシティの役割. *教育心理学研究* 48, 305-314. (2) 山崎瑞紀・倉元直樹・中村俊哉・横山剛 (1997). アジア系留学生の対日態度及び対異文化態度の形成におけるエスニシティの役割. *教育心理学研究* 45, 119-128. (3) 山崎瑞紀 (1994). アジア系就学生の対日イメージ形成に関する因果モデルの検討. *教育心理学研究* 42, 442-447. (4) 山崎瑞紀 (1993). アジア系留学生の対日態度の形成要因に関する研究. *心理学研究* 64, 215-223.

この分科会についてのお問い合わせは、玉岡賀津雄(0824-24-6288; ktamaoka@hiroshima-u.ac.jp)または中矢礼美(0824-24-6289; anakaya@hiroshima-u.ac.jp)までご連絡ください。



広島大学留学生センター主催・講演討論会

留学生支援 *Supporting International Students*

場 所: 広島大学教育学部第3・4会議室(2階) 無料, 参加自由
時 間: 2002年3月18日(月) 午前10時00分から午後4時00分まで

(午前の部) 10:00~12:00 多目的留学生支援調査の確立と有効な利用法
満足度調査の報告と多目的留学生支援調査の構想

玉岡 賀津雄(広島大学留学生センター助教授)

スクリーニングによる留学生の「心の健康」調査と留学生へのフィードバック

中矢 礼美(広島大学留学生センター講師)

● 広島大学留学生センター指導部門では、平成13年度に前期と後期の2回に渡って、留学生の満足度調査を行った。その結果、留学生のためにフィードバックが行える実用的な調査の確立を模索して、3つの目的を合わせた多目的調査を作る構想ができあがった。それは、第1に、「生活・学習環境改善のための留学生満足度調査」である。これは、10種類の生活・学習・研究における留学生の満足度を測定して、授業、研究室、図書館、インターネットなどの留学生支援のための生活・学習環境の改善に役立てる調査である。多数の質問項目から重要であると思われる項目に絞り込んで、短時間で有効な情報が得られるように工夫した。第2に、「スクリーニングによる留学生の心の健康調査」である。これは、自由記述の質問とそれに対する回答の有無を聞くことで、全留学生から相談や助言を必要とする留学生を漏れなく見出し、それに対応する方法である。第3に、「国際交流のための留学生ボランティア・データベース」の作成である。調査の中で、学内や地域での国際交流を促進するために留学生側から有償・無償のボランティア希望者を募り、それをデータベースにして活用する。平成13年後期の調査では、100名の留学生が希望してきた。留学生の側から国際交流に積極的に参加したいという希望が強いことが分かった。以上の3つの目的を合わせた多目的留学生支援調査を完成して、平成14年から実施したいと考えている。本講演討論会では、このような調査方法を提案し、留学生支援について討議する。

(午後の部) 14:00~16:00 イスラム文化圏留学生のための支援

講演者: 服部 美奈(岐阜聖徳学園大学専任講師)

● 午後の部では、満足度調査において明らかになったイスラム文化圏留学生の「指導教官との文化的コンフリクトの問題」を解決すべく、イスラム文化に造形の深い服部美奈先生に講演していただき、イスラム文化圏留学生の支援について討議する。

■ この講演討論会についてのお問い合わせは、玉岡賀津雄(0824-24-6288; ktamaoka@hiroshima-u.ac.jp) または中矢礼美(0824-24-6289; anakaya@hiroshima-u.ac.jp)までご連絡ください。



平成 13 年度
The Year 2001

広島大学学長主催

Hosted by the President of Hiroshima University

広島大学外国人留学生懇親会

Friendship Party for Hiroshima University International Students



日時: 平成 13 年 12 月 12 日 (水) 18:00~20:00

Date: 18:00-20:00, December 12, 2001

場所: ホテルグランヴィア広島 4階 悠久

Place: Hotel Granvia Hiroshima, The Yuku, 4th Floor.

連絡先(Contact Telephone): 0824-24-6184 広島大学留学生課
International Student Division, Hiroshima University



プログラム

Program

開 会 (18:00—)	Opening
学長挨拶	President's address
来賓紹介	Introduction of guests
来賓代表挨拶	Guests representative's address
留学生代表挨拶	International student's address
乾 杯	Toast
食事・歓談	Meal and conversation
アトラクション	Performances
閉会挨拶	Closing address
閉 会 (20:00)	Closing



アトラクション・プログラム

Program for Performances

1. トルコの伝統弦楽器「サズ」の演奏

Performance of a Traditional Turkish Stringed Instrument 'Saz'

トルコからの留学生で、教育学部の研究生であるテェンギス・グンドーズさんが、トルコの伝統弦楽器「サズ」の演奏を聞かせてくれます。1曲目は、「ナザバル」というサズ独奏曲で、2曲目は、「アウホディマム」という美しい女性を歌った曲です。

Cengiz Gundogdu from Turkey, a research student in Education will play a traditional Turkish stringed instrument 'Saz'. He will perform an instrumental solo piece 'Nazbari' and a song called 'Analfadinmem' (a name of pretty woman) with Saz.

2. 落語 - 「親の顔」 野呂亭焼海苔

A Comic Story 'Parents' Face' by Yakinori Norotei

教育学部3年の野呂和範君が、落語を披露してくれます。演目は「親の顔」で、高座名は野呂亭焼海苔(のろてい やきのり)です。日本語には、「親の顔が見たい」という表現があります。これは、子どもの言動に驚きあきれはてたような場合に使う表現です。テストで5点を取った子どもの親が学校に呼ばれ、先生と面接をすることになりました。さて、どうなることやら。

Kazunori Noro, a third-year Education student performs a Japanese traditional comic story, known as 'Rakugo'. His performing name is Yakinori Norotei and a title of Rakugo is 'Parents' Face'. There is a common expression in Japanese, *Oya-no kao-ga mitai* (I want to see your parents' face), which is used when shocked by a child's behavior. A boy got only 5 points in a mathematics test. In this story, a boy and his father are asked to come to school by a homeroom teacher. We'll see what will happen to them.

休 憩

Intermission

3. HUSA バンド Tri-Stars

A HUSA Music Band Tri-Star's

Andrei Kalugin (アンドレイ・カルギン) … Vocal (歌)

Pavel Bplotov (パベル・ボロトフ) … Guitar (ギター)

Jani Juuso Antero Salmu (ジャニ・ジュソ・アンテロ・サルム) … Harmonica (ハーモニカ)

広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)のロシアからの留学生2人とフィンランドからの留学生1人が、バンドを作りました。グループ名は、「トライスターズ」(オリオン座の中心にある「三つ星」で、冬の夜空を飾る)です。ロシアの流行歌「クロスロード」を演奏してくます。

Three HUSA (Hiroshima University Study Abroad) international students from Russia and Finland formed a music band called Tri-Stars which refers to the beautifully ornamented stars in the center of Orion in the winter sky. The band will perform a Russian popular song *Crossroad*.

4. インドネシア・バリ島の伝統的な踊り「マルガパティ」

Traditional Dancing in the Bali Island, Indonesia, 'Margapati'

広島市在住のインドネシア人のプトウ・アグスティナ・ユディアナさんが、バリ島の踊りを披露してください。タイトルは、「マルガパティ」といい、森の動物達の話です。バリ島には、多くのヒンドゥー教寺院、独特の踊り、石彫美術が残っており、観光地として有名です。

Putu Agustina Yudiana living in the city of Hiroshima will perform a Balinesian dance titled 'Margapati' about animals in a forest. On the island of Bali many Hindu temples, traditional dancing, music and stone-carving arts still remain.

5. 神楽『塵倫』— 広島県山県群千代田町「八重西神楽団」(団長 塚本勝芳)

Japanese Sacred Music and Dance Kagura 'Jinrin' by Chiyodacho 'Yaenishi Kaguradan'

約1800年前の大和時代の頃、身に翼があり、空を自由自在に駆けめぐる悪鬼が異国より九州に攻めて来たとき、第14代仲哀(ちゆうあい)天皇が征伐された物語。舞台の側では、古事記の神話に登場する「八岐大蛇」(やまたのおろち)が舞う。

This dance is based on a tale from the Yamato period (about 1800 years ago). The story describes a flying devil who came to conquer Kyushu. The 14th emperor Chuai chastises this devil. Beside the stage, the eight-headed dragon described in Kojiki (Record of Ancient Matters) can be seen circling around.

教育交流部門 広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム

堀田泰司
(広島大学留学生センター教育交流部門・助教授)

活動の経緯と目的

広島大学短期交換留学プログラムは、短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議（カルコン）においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながら北米、オセアニア、アジア、ヨーロッパ諸国の大学（短期学生交流協定校）に在籍する学部学生で、本学に一学期若しくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするもので、特別に「英語による授業科目」を開設することでもって、本学で教育を受ける機会を提供し、もって学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、総合科学と言う観点から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来、日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚の養成と海外留学を活性化することが出来るようなプログラムを提供する。また、交換留学プログラムを通じて、広島大学の学生を積極的に海外へ派遣し、21世紀の社会に貢献できるコミュニケーション能力と国際感覚を身に付けた大学生の要請を目指している。

昨年からは、こうした交換留学事業がより効率的且つ効果的に行われるようUMAP (University Mobility in Asia and Pacific) 事業にも参加し、単位互換制度においてもUMAP 事業が提唱するUCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) を適応している。HUSA プログラムは、国際交流委員会の下部組織である短期交換留学実施部会によって統轄されており、部会は、合計15名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門並びに留学生課がその主たる業務を担っている。また、協定校からの留学生の受け入れ、並びに、英語による授業科目の開講は、各学部が実施している。

I. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間： 一学期又は、一学年
- ・ 募集人員： 50名
- ・ 募集方法： 学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する。

- ・ 応募資格：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (2) 原則として自国の大学の正規課程3年次の学部学生（協定校によっては、院生も含む）
 - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - (4) 非英語圏から応募する学生にあっては英語による授業を履修するのに必要な英語力を持つ者
- ・ 選考方法：別途設置する選考委員会において、書類と面接試験をもって選考する。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで総括しながら、それぞれ専門に応じて本学の指導教官を定め、各学部で「特別聴講学生」（広島大学学生交流規程）として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）
- ・ カリキュラム：授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSAプログラムの学生のために特別に開設された英語による授業であり、「常設科目」は、すでに総合科学部で開設されていたものに、HUSAプログラムの学生が登録した場合、英語を交えた授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設している日本語・日本事情の科目である。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統轄は各学部で行われている。以下が2001-2002年度に開設された授業科目一覧表である。

2001年度(2001年10月～2002年7月) 授業科目一覧

1. 特設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
アジアの哲学と宗教	2単位	秋学期	文学部
動物の行動と人との関係	2単位	秋学期	生物生産学部
自主防衛機制論	2単位	秋学期	生物生産学部
材料科学概論	2単位	秋学期	理学部
財政理論と政策	2単位	秋学期	経済学部
現代日本政治	2単位	秋学期	法学部
現代日本社会事情	2単位	秋学期	総合科学部

国際人権法演習	2単位	秋学期	総合科学部
心理学実験のための コンピュータプログラミング	2単位	秋学期	教育学部
コミュニケーション能力の 理論的分析	2単位	秋学期	教育学部
日本の家庭生活	2単位	秋学期	教育学部
日本の文化と教育	2単位	秋学期	教育学部
日本の琴演習	2単位	秋学期	教育学部
日本の文化と教育演習	2単位	秋学期	教育学部
日本の理科教育	2単位	秋学期	教育学部
仏教学	2単位	春学期	文学部
応用微生物学	2単位	春学期	生物生産学部
環境動物生理学	2単位	春学期	生物生産学部
現代化学概論	2単位	春学期	理学部
生命科学概論	2単位	春学期	理学部
グローバル的視点からみた 日本経済	2単位	春学期	経済学部
応用化学と生物工学概論	2単位	春学期	工学部
日本の教育改革	2単位	春学期	総合科学部
平和と人権	2単位	春学期	総合科学部
国際理解のための教材開発	2単位	春学期	教育学部
比較教育学	2単位	春学期	教育学部
開発と国際教育論	2単位	春学期	教育学部
国語と国文学とその教授法	2単位	春学期	教育学部
日英比較対象言語学	2単位	春学期	教育学部
数学理論	2単位	春学期	教育学部
日本のスポーツと文化	3単位	春学期	教育学部
特殊教育における傾向と課題	2単位	春学期	教育学部
自由課題研究	4単位	秋・春学期	

2. 常設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
環境化学	2単位	秋学期	総合科学部
日本語・日本事情B	2単位	秋学期	総合科学部
日本語・日本事情A	2単位	春学期	総合科学部
生体防御学	2単位	春学期	総合科学部

言語応用論演習 A	2単位	春学期	総合科学部
量子力学演習	2単位	春学期	総合科学部
物理学実験 A	2単位	春学期	理学部
地球科学野外演習	2単位	春学期	理学部

3. 日本語関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語レベル IA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IB	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IC	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル ID	2単位	秋学期	留学生センター
日本語レベル IIA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIB	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIC	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IID	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIE	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIF	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIIA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIIB	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIIC	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IVA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IVB	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IVC	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IVD	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VB	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VC	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VD	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VE	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VF	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VG	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 B	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 C	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 D	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 E	2単位	秋・春学期	留学生センター

- ・ 受け入れ体制の整備：(1) 学生宿舍（日本人・留学生混住型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(2) 日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(3) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼しないで、機関保証（広島大学）とする。

II. 2001年度HUSAプログラム受け入れ状況

2001年度は、カナダ、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ（新規）、中国、韓国、フィリピン、ロシア、ポーランド、スウェーデン、イギリス、ドイツの19大学(前年度20大学)から計36名(前年度42名)の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が1年間の滞在を希望しており、男女別で見ると男子学生20名、女子学生16名であった。

派遣国	大学名	期間	人数 (男:女)
カナダ	カルガリー大学	1年	1名 (1:0)
アメリカ	フロリダ州立大学	1年	3名 (3:0)
	メリーランド大学	1年	2名 (0:2)
	ミネソタ大学	1年	3名 (3:0)
	ハワイ大学	1年	2名 (2:0)
	アラバマ大学	1年	3名 (3:0)
オーストラリア	ニューイングランド大学	1年	3名 (0:3)
	ラ・トローベ大学	半年	1名 (0:1)
マレーシア	マラヤ大学	1年	2名 (0:2)
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校	1年	1名 (1:0)
中国	大連理工大学	1年	1名 (0:1)
韓国	釜山大学	1年	2名 (0:2)
	慶北大学	1年	1名 (0:1)
タイ	タマサート大学	1年	2名 (1:1)
ロシア	トムスク工科大学	1年	2名 (2:0)
ポーランド	ワルシャワ農業大学	1年	1名 (1:0)
スウェーデン	リンシェーピン大学	1年	1名 (1:0)
イギリス	リーズメトロポリタン大学	1年	3名 (1:2)
ドイツ	チュービンゲン大学	1年	2名 (1:1)
合計			36名 (20:16)

所属学部別

所属学部	人数 (男 : 女)
総合科学部	5名 (2 : 3)
文学部	6名 (5 : 1)
教育学部	11名 (3 : 8)
経済学部	5名 (2 : 3)
法学部	1名 (1 : 0)
生物生産学部	1名 (1 : 0)
工学部	4名 (4 : 0)
理学部	2名 (2 : 0)
国際協力研究科	1名 (0 : 1)
<hr/>	
合計	36名 (20 : 16)

III. 2001年度HUSAプログラム受け入れ活動

- ・ 選考：2001年度募集要項は、昨年1～2月中に派遣大学へ配布され、3～4月に各大学から参加希望者が推薦された。そして、5月には、本学の選考委員会によって正式決定された。
- ・ 渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションを兼ねて広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き」を各学生に送付した。また、学生の個人的な質問等には、ホームページによる情報の提供と電子メールやファックスを活用し直接、個々のケースに対応した。
- ・ チューターオリエンテーション：日本人学生チューターに対し、今年度も2回の説明会を行った。第1回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第2回目は、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。
- ・ 見学・体験学習：短期留学生を対象に毎年10月から11月にかけて、宮島見学、酒祭り見学、文化交流のための学校訪問、稲刈り体験学習、ホームステイ等の課外活動を実施している。その他にも短期プログラム用特設科目の指導教官が授業の一貫と

して独自に様々な見学旅行を実施している。

- ・ 授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目数は、毎年、全学から開講され、今年度も69もの科目が短期留学生の為に開講された。
- ・ 履修状況：今年度の履修状況は、過去5年の状況と概ね同様で全員が10～12単位、授業科目数にして、6～9教科授業を履修している。多くの学生は自分の専門分野以外の教科にも積極的に参加している。特に、日本語の履修の比率の多さは、例年通り、顕著に現われている。
- ・ 文化交流支援活動：今年度は、4年目を迎える口和町ホームステイプログラムへの参加、東広島ホストファミリークラブとの交流会、クラブ活動への参加の支援等を行って来た。また、当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介している。会話パートナーとの交流は、留学生の日本人学生との交友関係をより充実したものにし、ここ数年、留学生から「疎外感」という言葉を聞くことは、ほとんどなくなった。

IV. 2000 - 2001年度HUSA留学生派遣計画

本校の短期留学生派遣は、2001年度までに既に5回実施されており、また、2002年度派遣留学生の選考も既に終えている。例年、12月24日(本年度は、25日)に応募者の選考試験を行い、翌年の1～2月中には実施委員会で選考、3～4月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集に関する資料の一部を抜粋したものである。

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム 派遣学生の募集について

1 制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は、複数学期教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度で、平成8度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、中国、韓国、ロシア、ポーランド、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協

定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており平成14年度の派遣学生を別紙の通り募集します。

2 特徴：

- ・授業料不徴収
- ・単位互換制度
- ・現地コーディネータのアシスタント
- ・短期交換留学生との留学前の交流と留学後の現地での交流

3 出願書類：

- ・申請書
- ・留学計画書
- ・TOEFL 成績表 (197 点以上が望ましい。)
- ・学業成績証明書

4 出願書類提出締め切り：平成13年11月30日 (金)

5 選考：

応募条件を満たしている者に対し、留学計画、TOEFL 成績、学業成績及び面接 (口述) 試験の結果に基づき選考する。第二希望大学まで選考の対象とする。

6 面接 (口述) 試験日：平成13年12月25日 (火)

7 決定：平成14年2月ごろ協定校へ推薦し、最終決定は協定校の決定によるものとする。

V. HUSA 留学生派遣事業の実績

2001 年度の短期交換留学生派遣に関しては、既に 28 名を推薦し、13 大学へ派遣した。また、2002 年度派遣留学生に関しては、29 名が応募し、内 19 名はアメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、韓国、イギリス、オランダ、ドイツの 12 校への推薦が決定している。また、韓国の慶北大学は、短期学生交流事業の大幅な拡大に対応する形で、新年度に入り、第 2 次募集をかけている。また、オーストラリアとニュージーランドの協定校に関しては、今年の 7 月にも 2 次募集し、10 月に選考する予定である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

本学の学生に海外留学の機会を増やすことが、広島大学の短期交換留学プログラムの重要な任務の一つであることから、2001年度にもいくつかの活動を行った。第1の活動は、協定校の概要を日本語で紹介する「協定校ガイドブック」の編集である。今年度は、タイのタマサートや来年度から交流が始まる新協定校も加わり、さらに内容を充実させている。第2の活動は、派遣前のオリエンテーションの開催で、毎年、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。また、広島大学と協定校の学生交流はその後も続き、現在は、協定校においても様々な交流活動が行われている。最後に、海外留学の機会をより多くの学生に認識してもらうため、2001年の6月に短期交換留学プログラムの説明会を2回、開催した。こうした説明会は今年度で5年目を迎え、毎年約150-200名程度の学生にプログラムに関するガイダンスを行って来た。今後ともより多くの説明会やその他の広報活動を続け、一人でも多くの日本人学生を派遣できることを期待している。

VII. その他の活動

今年度も、その他の大きな活動としては、UMAP 事業に関わる実質的な学内の業務を開始したことと学外での UMAP 事業の普及活動への積極的参加が上げられよう。UMAP 事業においては、2000年度から広島大学の短期プログラム実施部長並びに担当教官が UMAP の国内外の委員会の委員を努め、その活動の中心的な役割を担ってきた。そうした状況から今年度も国内外で UMAP 事業の普及、広報活動に積極的に参加し、また、広島大学の交換留学プログラムにおいても UCTS を試行的に導入し、協定校との交渉や ERASMUS のガイドラインに沿ったプログラムガイドブックの作成等を行っている。

主な活動

- 6月 香川大学で開催された平成13年度留学生交流研究協議会（中国・四国・九州大会）にて短期プログラム（以下、短プロ）担当教官が広島大学の事例を使って UMAP 事業の業務内容について具体的に説明した。
- 7月 アラバマ大学教授来校。
- 9月 短プロ担当教官がカンボジアで開催されたメコン川広流域諸国のための UMAP セミナー・高等教育講演会にて日本の UMAP 活動について広島大学の事例を使って説明した。
- 11月 小樽商科大学と SCS（スペース・コラボレーションシステム）を使って遠隔授業を実験的に試みた。

12月 短プロ実施部会長と短プロ担当教官がUMAP国内委員会を代表してフィンランドで開催された第13回欧州高等教育協議会(EAIE)年次会議にて日本のUMAP活動について発表した。

広島大学留学生センター主催、講演・討論会を開催。短プロは、13大学(16名)が参加し、短プロの運営に関する諸問題について討論した。

1月 短プロ担当教官が総合科学部長、高等教育研究開発センター長、同センター教官1名とともにアメリカの協定校であるフロリダ州立大学、ミネソタ大学を訪問し、プログラム制度について情報を収集すると共に、短プロの運営について意見交換を行った。そして、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学を訪問し、学生交流協定締結の可能性について会談した。

下関市立大学が来校。UAMPの実施について説明した。

2月 短プロ実施部会長と短プロ担当教官がイギリスのシャフィールド大学、ノッティンガム大学、レスター大学を訪問し、学生交流協定締結の可能性について会談した。

短プロ実施部会長と短プロ担当教官が日本UMAP国内委員会が主催するUMAP事業に関する説明会で講演した。

3月 横浜国立大学が来校。UMAP活動等について説明した。

短プロ担当教官が佐賀大学主催「海外留学推進シンポジウム」にてUMAP事業について講演した。

広島大学留学生センター講演・討論会 「留学生教育と危機管理」

中川正弘

広島大学留学生センターでは2001年12月21日(金)・22日(土)、留学生教育に関わっていらっしゃる多くの方にお集まりいただき、恒例の講演・討論会を開催した。

午前の部の全体会は「留学生教育と危機管理」をテーマに、このような問題に関わりご活躍の御二人に講演をお願いし、午後の部では日本語教育部門、指導部門、短期交流部門の三部門がそれぞれ部門固有のテーマで分科会を持った。

全体会 12月21日(10:00~12:10) : 教育学部第1会議室

「留学生教育と危機管理」

開会の辞 : 二宮皓 留学生センター長

司会 : 浮田三郎

1 臨床の見地から

「留学生のメンタルヘルスと危機管理」

京都大学留学生課専門職員 大橋敏子(10:10~11:10)

留学生のメンタルヘルスの危機対応について、多文化間カウンセリングの視点から考察する。さらに、カウンセラーと精神科医との連携について多文化間精神医学の視点からも考察したい。

2 行政の見地から

「留学生教育と危機管理～大学、地域社会、ネットワーク～」

東京大学留学生センター 栖原暁(11:10~12:10)

外国人にとって「危機」とは日本に足を踏み入れた時点から直面する様々なバリアであり、その速やかな克服と、安全で円滑な日常生活の確保が留学の成否を決定づける重要なファクターの一つとなる。留学生数が再び急増に転じる中で、大学はこれに対していかなる対応をすべきか。大学、地域社会、ネットワークをキーワードに考えてみたい。

・日本語教育部門分科会

「日本語教育機関の連携・協力と外部への貢献」

留学生センター等、日本語教育機関はその内部における教育・研究活動の充実を図るだけでなく、外部の組織とも積極的に連携・協力し、またさまざまな形で貢献することが求められており、このような情勢の中、連携、貢献とは具体的にどのような形で行われるものか考えねばならない。

そこで、今回の日本語教育部門の分科会では、さまざまな形で外の組織、団体と関わって活動している国内のいくつかの機関で日本語教育を担当している方々にその機関の活動について話していただき、このような問題について討議した。

司会 - 多和田眞一郎

- 国立国語研究所の活動

金田智子(14:00～14:45)

- 国際交流基金日本語国際センターの活動

中村雅子(14:45～15:30)

- 国際交流基金関西国際センターの活動

長谷川聡(研修事業課長)(15:30～16:15)

・部門討議(16:15～16:50)

・指導部門分科会

「どうすれば留学生を満足させるのか？」

1. 接触場面における留学生の意識的配慮の検討

講師 東京成徳大学 一二三朋子(HIFUMI, Tomoko)先生

14:00～14:40 講演

14:40～14:50 質問(14:50～15:00 休憩)

要旨:留学生が日本語母語話者との接触場面で会話を行う時どのような配慮を行っているかを、母語話者同士の場合における配慮と比較検討する。また、ボランティア教室に通う日本語学習者の配慮との違いも検討したい。**参考文献:**(1)一二三朋子(1999). 非母語話者との会話における母語話者の言語面と意識面との特徴及び両者の関連. *教育心理学研究*, 47, 490-500. (2)一二三朋子(1995). 母国語話者と非母国語話者との会話における母語話者の意識的配慮の検討. *教育心理学研究*, 43, 277-288. (3)一二三朋子(2000)日本人との会話における外国人留学生の意識的配慮の検討. *東京成徳大学研究紀要*, 7, 21-28.

2. 留学生のヘルパーに対する被援助志向性

講師 一橋大学 水野治久(MIZUNO, Haruhisa)先生

15:00～15:40 講演

15:40～15:50 質問(15:50～16:00 休憩)

要旨:留学生は日本人や大学関係者に援助を求めないと言われています。ここでは、米国の研究動向と調査データを参考にしながら、①留学生の被援助志向性を高めていくにはどうしたら良いのか、②留学生の被援助志向性を尊重した援助方法について、考えていきたいと思えます。**参考文献:**(1)水野治久・石隈利紀(2001). アジア系留学生の専門的ヘルパー、役割的ヘルパー、ボランティアヘルパーに対する被援助志向性と社会・心理的変数の関連. *教育心理学研究*, 49, 137-145. (2)水野治久・石隈利紀(2000). アジア系留学生の専門的ヘルパーに関する被援助志向性と社会・心理的変数の関連. *教育心理学研究*, 48, 165-173. (3)水野治久・石隈利紀(1999). 被援助志向性、被援助行動に関する研究の動向. *教育心理学研究*, 47, 530-539.

3. 留学生、及び、日本語学校生の対日態度形成

講師 早稲田大学 山崎瑞紀(YAMAZAKI, Mizuki)先生

16:00～16:40 講演

16:40～16:50 質問

要旨:在日留学生の約90%を占めるアジア出身の留学生、日本語学校生が来日後、どのような対日態

度を形成するのか、について、これまで行ってきた調査研究(多母集団の平均・共分散構造モデルを用いた対日態度形成因果モデルの構成)や事例研究をもとに、報告を行いたい。参考文献:(1)山崎瑞紀・倉元直樹・中村俊哉・横山剛(2000). アジア出身日本語学校生の対日態度及び対異文化態度の形成におけるエスニシティの役割. *教育心理学研究*, 48, 305-314. (2)山崎瑞紀・倉元直樹・中村俊哉・横山剛(1997). アジア系留学生の対日態度及び対異文化態度の形成におけるエスニシティの役割. *教育心理学研究*, 45, 119-128. (3)山崎瑞紀(1994). アジア系就学生の対日イメージ形成に関する因果モデルの検討. *教育心理学研究*, 42, 442-447. (4)山崎瑞紀(1993). アジア系留学生の対日態度の形成要因に関する研究. *心理学研究*, 64, 215-223.

・短期交流部門分科会

「受け入れ学生の教育環境」

[14:00～15:30]

1 所属先・指導教官のミスマッチに関して

指導教官や受け入れ学部に関しては、留学生の選考や留学目的を考慮して決定しているが、時として留学生の本当のニーズに即していない場合がある。しかし、制度的に、来日後、受け入れ学部や指導教官を変更することは極めて困難である。短プロの教育面での受け入れ体制を充実させるためには、今後どのような対応をすべきか。

2 短プロ科目の学内での扱いについて（特別科目と一般科目の扱いの違いから生まれる利点と弊害）

短プロ科目は多くの大学では、特別に追加された科目であり、英語で教えられるため、学部では、「非常に負担となる」科目として扱われているケースが多い。また、一般科目として扱われた場合、日本人学生の参加が可能でも、実際には、英語で開講される短プロ科目への参加は難しかったり、学内での実質的な一般科目としての位置付けが難しい状況が生まれる。短プロ科目が学内で認められるべき理想的な位置付けとはどのようなものか。

3 異文化間理解教育について

短プロ留学生の存在は、多くの大学では、学内・地元コミュニティの異文化理解活動になんらかの影響を及ぼしている。また、短プロ留学生自身にとっても異文化理解・適応能力の養成は、重要な教育目的の1つと言えよう。では、そうした異文化理解教育・活動を受け入れ大学は、どのように具体的に実施すべきか。

[15:50～16:50]

4 短プロ科目の UMAP の UCTS の活用について

実際に UMAP 奨学金を利用されている大学の対応状況について、テクニカルな部分で不明確なことがある場合は、できる範囲で説明する。

5 SCS・IT を利用した短プロ科目の開発について

今までにも SCS（スペースコラボレーションシステム）を利用して短プロのための共同開発授業の開講が計画されたが、未だ実現していない。しかし、小樽商科大と広島大学で実験授業を行なったので、その報告をし、将来的には、SCS や IT を利用してどのような科目を開発すべきか討論したい。

参加者名簿

	大学・所属機関等	所 属	官 職	氏 名
講演者	東京大学	留学生センター	教授	柘原 暁
	京都大学	留学生課	専門職員	大橋 敏子
	国立国語研究所	日本語教育部門	主任研究員	金田 智子
	国際交流基金	日本語国際センター	専任講師	中村 雅子
	国際交流基金	関西国際センター	研修事業課長	長谷川 聡
	東京成徳大学	人文学部	専任講師	一二三 朋子
	一橋大学	大学院法学研究科・法学部	講師	水野 治久
	早稲田大学	留学生センター	非常勤講師	山崎 瑞紀
日本語教育	群馬大学	留学生センター	助教授	渡部 孝子
	埼玉大学	経済学部	講師	鈴木 洋子
	国際交流基金	関西国際センター	講師	熊野 七絵
	東京外国語大学	留学生日本語教育センター	教授	松井 信行
	金沢大学	留学生センター	助教授	峰 正志
	神戸大学	留学生センター	教授	中西 泰洋
	岡山大学	留学生センター	講師	Andrew Barke
	岡山大学	留学生センター	教授	斉藤 美智子
	高知大学	人文学部	教授	奥村 訓代
	韓国順天大学校	人文社会科学大学日語日文学科	講師	趙 燦熙
指導部	北海道大学	留学生センター	助教授	関 道子
	東北大学	留学生センター	助教授	助川 泰彦
	群馬大学	留学生センター	教授	庄司 恵雄
	千葉大学	留学生センター	助教授	見城 悌治
	東京農工大学	留学生センター	助教授	田崎 敦子
	東京学芸大学	留学生センター	助教授	任都栗 新
	桜美林大学	国際教育センター	助教授	松下 達彦
	富山大学	留学生センター	助教授	出原 節子
	信州大学	経済学部	助手	秋庭 裕子
	福井大学	教育地域科学部	助教授	脇田 里子
	名古屋大学	留学生センター	助教授	松浦 まち子
	名古屋工業大学	工学部	講師	宮地 朝子

	山口大学	人文学部	教授	林 伸一
	ハンバッド大学	日本語科	副教授	宋 晚翼
短期交流部門	小樽商科大学	商学部	副教授	横田 宏治
	東北大学	留学生センター	副教授	粕壁 善隆
	筑波大学	留学生センター	助手	鈴木 伸隆
	東京大学	教養学部	助手	君 康道
	東京外国語大学	留学生日本語教育センター	教授	道脇 綾子
	東京農工大学	留学生センター	副教授	川端 良子
	東京工業大学	留学生センター	教授	廣瀬 幸夫
	電気通信大学	留学生センター	教授	外山 昇
	京都大学	留学生センター	副教授	青谷 正妥
	大阪大学	留学生センター	教授	北浜 榮子
	大阪大学	留学生センター	副教授	近藤 佐知彦
	岡山大学	留学生センター	教授	亀高 鉄雄
	岡山大学	留学生センター	副教授	中村 和泉
	大分大学	教育福祉科学部	教授	隈本 順子
	大分大学	教育福祉科学部	講師	森 玲子
	九州大学	留学生センター	教授	Andrew Cobbin
	琉球大学	留学生センター	教授	原 勢二郎
ひろしま国際センター研修部	研修第一課	日本語常勤講師	大飼 康弘他5名	
広島大学	文学部		副教授	橋本 敬司
	教育学部		留学生専門教育教官	山本 雅美
	総合科学部		留学生専門教育教官	金森 貞夫
	法学部		留学生専門教育教官	森川 昌子
	保健管理センター		技官	松山 まり子
			技官	岡田 真紀
			技官	石原 令子
			副教授	中丸 澄子
	総合科学部		留学生担当係	井上 雅晴
	留学生センター		センター長	二宮 皓
		教授	多和田 眞一郎	
		教授	浮田 三郎	

		助教授	中川 正弘
		助教授	深見 兼孝
		助教授	田村 泰男
		講師	石原 淳也
		助教授	堀田 泰司
		講師	グリーク・リークレ
		助教授	玉岡 賀津雄
		講師	中矢 礼美
		非常勤講師	茅本 百合子
		非常勤講師	宮岡 弥生

広島大学留学生センター講演・討論会

「日本語 CALL 教材の研究」

多和田眞一郎

日本語 CALL 教材の作成・使用・評価等に関する講演・討論会を行なった。

英語 CALL 教材で成功を取めた「3 ラウンドシステム」を日本語に応用して作成した日本語 CALL 教材（聴解練習用）「アパートに住む」を題材に、CALL 教材の高度化について考え、共同研究の可能性についても話しあった。

日時：2002年2月22日（金）・23日（土）

場所：教育学部 K208

出席者 池田伸子（九州大学）
大城朋子（沖縄国際大学）
小川蒼子美（横浜国立大学）
川平博一（琉球大学）
中川良雄（京都外国語大学）
難波康治（大阪大学）
藤本孝一郎（城西大学）
中川正弘（広島大学）
石原淳也（広島大学）
題材提供 水町伊佐男（広島大学）
多和田眞一郎（広島大学）

日程：2月22日（金）

受付（10：30～11：00）

概要説明（11：00～12：00）

休憩（12：00～13：30）

CALL 教材の検討（13：30～15：00）

休憩（15：00～15：30）

質疑応答・討論会（15：30～17：00）

意見交換会（18：00～20：00）

2月23日（土）

共同研究打ち合せ（10：00～12：00）

留学生センター講演・討論会 「留学生支援」

中矢 礼美

広島大学留学生センターでは、平成14年3月18日（月）に学外、学内から留学生指導に携わられている方々に参加いただいて、「留学生支援」と題する講演・討論会を開催した。

午前の部では、広島大学留学生センター指導部門の二名によって、「多目的留学生支援調査の確立と有効な利用法」と題した発表を行った。

午後の部では、岐阜聖徳学園大学助教授服部美奈先生から「イスラム文化圏留学生のための支援」に関する講演を頂き、その後に討論を行った。

テーマ： 留学生支援

開催日時：平成14年3月18日（月）午前10時から午後4時まで
（受け付けは午前9時から）

プログラム：

（午前の部）10:00～12:00 多目的留学生支援調査の確立と有効な利用法

1. 満足度調査の報告と多目的留学生支援調査の構想

玉岡 賀津雄（広島大学留学生センター助教授）

広島大学留学生センター指導部門では、平成13年度に前期と後期の2回に渡って、留学生の満足度調査を行った。その結果、留学生のためにフィードバックが行える実用的な調査の確立を模索して、3つの目的を合わせた多目的調査を作る構想ができあがったことを発表した。

2. スクリーニングによる留学生の「心の健康」調査と留学生へのフィードバック

中矢 礼美（広島大学留学生センター講師）

広島大学留学生センター指導部門が行った満足度調査の中では、自由記述欄を設け、全留学生から相談や助言を必要とする留学生を漏れなく見出し、それに対応する方法をとった。その対処方法について主に発表をおこなった。

（午後の部）14:00～16:00 イスラム文化圏留学生のための支援

講演者：服部 美奈（岐阜聖徳学園大学助教授）

イスラム教についてとイスラム文化圏留学生に対する支援について講演していただき、その後各大学でのイスラム文化圏留学生の支援のあり方について討議を行った。

広島大学留学生センター指導部門主催「留学生支援」講演討論会出席者 2002年3月18日(月)
 学外参加者19名、学内参加者9名

氏名	大学名	役職名
服部美奈 (講演者)	岐阜聖徳学園大学	助教授
中島美樹子	東北大学大学院工学研究課留学生企画室	講師
山本一男	埼玉大学留学生センター	教授
広瀬幸夫	東京工業大学留学生センター	教授
藤井桂子	横浜国立大学留学生センター	助教授
牧かづみ	信州大学医学部国際交流室留学生専門教育教官	講師
三井豊子	静岡大学教育学部	講師
田所真生子	名古屋大学大学院国際開発研究科	講師
松下達彦	桜美林大学国際教育センター	助教授
瀬口郁子	神戸大学留学生センター	教授
岡益巳	岡山大学留学生センター	教授
廣田陽子	岡山大学経済学部	講師
永井智香子	長崎大学留学生センター	助教授
中村幸士郎	山口大学教育学部	教授
金城かおり	琉球大学留学生センター	講師
中田晶子	国際交流会東広島	
中原通江	国際交流会東広島	
犬飼 康弘	ひろしま国際センター	日本語講師
浅田雅美	ひろしま国際センター	
片岡勝子	広島大学医学部	教授
山岡和子	広島大学医学部留学生専門教育教官	講師
森川昌子	広島大学法学部留学生専門教育教官	講師
Tee Heng	広島大学経済学部留学生専門教育教官	講師
太田啓子	保健管理センター	非常勤講師
佐々木京子	保健管理センター	非常勤講師
朝倉淳	広島大学医学部留学生専門教育教官	講師
宮丸尚子	広島大学工学部大学院教務係	
田口明子	広島大学教育学研究科	院生